



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

関西医大生の誇り胸に

114名が入学

2～4面に関連記事



入学式の日、さわやかにキャンパスを歩く新入生たち

CONTENTS

入学式	2	学事	20
大学院入学宣誓式	4	病院	23
法人 平成23年度事業計画・予算	5	卒後臨床研修センター	28
新入職者入職式	8	附属看護専門学校	30
退任の挨拶	9	東日本大震災支援	32
就任の挨拶	11	大学情報センター	33
特集 「夢の新学舎」実現へ	12	同窓会	34
大学	15	キャンパスニュース・メディア情報	35

平成23年度 入学式挙行

114名の新入生が新生活スタート

平成23年度関西医科大学入学式が、満開間近の桜のもと穏やかな陽気に包まれた4月5日(火)午後1時30分から教養部学舎大講堂において挙行され、新入生114名(男子76名、女子38名)が新生活のスタートを切りました。式典には山下敏夫学長はじめ、来賓、教職員、保護者ら多数の方々が登場しました。冒頭、本学の混声合唱団コールクライスのリードのもと会場全員で学歌を斉唱し、続いて新入生全員の氏名が読み上げられました。山下学長の告辞の後、新入生を代表して大場祥平君が宣誓し、在學生を代表して2学年の田妻卓君が新入生に歓迎の言葉を贈りました。

また、茶道部による茶席を設け、多くの参加者に利用していただきました。



宣誓する新入生代表

山下学長告辞

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本日男子76名、女子38名計114名の皆さんを迎えて、平成23年度の入学式を挙行できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、まことに大きな喜びであります。ご臨席をいただきましたご来賓各位に厚くお礼を申し上げます。見事に難関を突破されたの合格であり、ご本人の努力と、その彼等の勉強と生活の支援を続けてこられたご家族や関係の方々から心からお祝いを申し上げます。

告辞の前に申し上げたいことがあります。この度の東日本大震災は未曾有の大惨事となりました。3万人に達すると思われる死者、行方不明者に哀悼の意を表しますと共に被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。この大震災を通して、私は自然の力の大きさ、文明のもつ脆弱さ、人命の尊さなどを改めて感じました。皆さんも同じ気持ちだと思います。日本国民が1つになればこの国難を必ず乗り越えることができ、また自然と調和のとれた新たな文明が作れると信じています。

さて皆さんは今日の入学式を迎えて、医師になるためのまさに第一歩を踏み出されたこととなります。喜びとともに、これからの本学で始まる学生生活への大きな期待と、そして少しは不安も抱いておられることでしょうか。そこで皆さんの母校となる関西医科大学とはどういう大学か、歴史、現況、近い将来像などについてまずお話いたします。

本学は1928年に濱地藤太郎先生により大阪女子高等医学専門学校として創設されました。その後1954年に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。1960年には医学進学課程が設置されて、現在の6年課程の教育が行われるようになりました。卒業生総数は7,500名を数え、今年で創立83周年を迎えるという歴

史のある学校です。その長い歴史の一端を示すのが、現在入学式が行われているこの講堂で、これは昭和13年に建築された建物です。この天井には明治21年に描かれた「双龍鳳凰」があり、この画は今や大阪の文化財の1つになっています。

一方、本学は次々に新しい施設を作り、日々進歩する医学・医療の先端を行く努力をしています。具体的には5年前に本学の基幹病院である枚方病院を京阪枚方市駅前に開院しました。この病院は施設、医療設備ともに日本有数の病院と自負できます。さらに昨年7月には京阪香里園駅前に香里病院が開院しました。これでこの新しい2つの病院に従来からある滝井病院を加え、本学の3附属病院体制が整いました。さらに本学では枚方病院の横に大学本部や全てのキャンパスを統合した新しい学舎を2年後に完成、オープンさせる予定で、本年6月から、いよいよ着工に入ります。この新学舎は交通至便に加え、淀川と天野川に囲まれた極めて環境の良い場所に建てられます。また医学生のために現在考えられる最高の諸設備を備え、真の6年一貫教育が行えます。新入生の皆さんはこの新学舎を3年生の時から使用できることとなります。大いに楽しみにしてください。

さて、この入学を機に、皆さんに言っておきたいことが4点あります。

皆さん、右前上の額を見てください。本学の建学の精神である「慈仁心鏡」が記されています。「慈仁心鏡」即ち、慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神としています。必ずこの言葉を記憶しておいてください。また本学の教育の理念は、この建学の精神に則り、自由・自律・自学の学風のもと学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野を持つ人間性豊かな良医を育成することにあります。この教育方針により、本学の学生は今日までのびやかに、かつおおらかに学生生活を過ごしてまいり、これが本学の特徴とも言えました。しかし最近「自由はきちんとした規律の中にこそある」ということを忘れ、服装、行動、態度などに若干の乱れがある学生を散見します。また「自学」の意味をはき違え、講義や実学である実習までも軽んじる傾向が垣間見えます。医学生は、学生であると同時に、将来の医療を担うという特別な役割、端的に言えば患者さんの命を預かるという役割を担っているという自覚を持って日々行動し、勉学に励んでください。「よく学び、よく遊べ」は大変良い言葉だと思います。勉学に励むと同時にクラブ活動を活発に行うなど学生生活にメリハリをつけてエンジョイしてください。ただ、くれぐれも「よ

く遊び、よく学べ」と順序が逆にならないようにお願いします。これがその第一番目です。

第二番目は、将来広い視野を持った医師になってほしいことです。ある統計によれば日本人の米国への留学者はこの10年で実に半減したとのこと。この要因の大きなものは「無理に外国に行かなくても、言葉も自信がないし…」という内向き志向が底流にあると言われています。トヨタグループの創始者である豊田佐吉翁は「障子を開けてみよ、外は広いぞ」と言われたと聞いています。また昨年ノーベル化学賞を受賞された根岸英一先生は「若者は海外に出よ」と呼びかけておられました。私も「感受性の豊かな若い一時期に異文化と接することにより、世界的視野で物事を考える下地が作れ、それがその人の大いなる成長につながる」と信じています。本学では今年度、即ち皆さんの学年から、英語教育の強化のために英語検定試験であるTOEIC受験の義務化を始めます。また6学年第一学期の海外臨床実習先を4カ国6施設に増やしました。さらに卒業後、海外臨床留学のための「スーパードクター制度」を新たに作りました。どうぞ皆さん一度は海外での生活を体験され、広い視野を持つ医師を目指してください。社会全体が元気を失っている今こそ皆さんのような若者は失敗のリスクを恐れず、果敢に挑戦する勇氣を持ってください。

第三番目は自己犠牲あるいは奉仕についてです。今年の卒業式の際にも卒業生にその一部を紹介しましたが、150年前に長崎に西洋医学を伝えた医師ポンペは「患者のために自分を犠牲にする心のない者は医師になってはいけない」と教え、また大阪の適塾の創始者で近代医学の祖というべき緒方洪庵は「医の世に生活する人は人の為のみ、己のためにあらず、己を捨てて人を救はんことを希ふべし」と述べておられます。またその卒業式の際、本学と国際交流の協定を結んでおり、6回生の海外臨床実習先でもある米国バーモント大学のモーリン学長より「医学のプロの神髄とは『奉仕の精神』である。医師はたえず患者さんとその家族に奉仕しなければならない」という貴重なメッセージをいただきました。本学の卒業生である須藤昭子先生は83歳という高齢にもかかわらず、南米ハイチで大変劣悪な生活環境や医療環境の中、一命を賭して目の前の

患者さんに向き合っておられ「ハイチのマザーテレサ」と呼ばれておられます。さらに、今回の大震災の際、本学から医師や看護師からなる多くの医療救援チームが被災地に行き、活動をいたしました。私はその全員が命令されたからではなく、自ら希望して赴いてくれたことに感動をおぼえました。以上お話したように医師には自己犠牲や奉仕の精神が必要なのです。皆さんは入学1年の時から、じっくりとこの精神を育ててほしいと思います。なお本学では1学年から3学年まで「総合人間医学」というカリキュラムの中で社会福祉施設の体験実習をしたり、また5学年には社会医学実習として障害者施設などで実社会を体験するコースがあります。それ以外にもどうぞ皆さん自主的に奉仕活動をどしどし行ってください。

第四番目は愛校心についてです。本学は最初に述べましたように、着々と新しい施設、設備を整えつつあるのみならず、ソフト面では極めて高度で最新の教育システムを採用しております。また研究面ではCOE、即ち世界的研究拠点の選定を受けて以来、「研究の関西医大」の名は定着したのではと思います。また、たとえば本学出身者の主任教授は現在、本学、他学を合わせて30名を超え、一方、大阪府下の13の医師会長を本学出身者が占めています。先ほどお話したように「ハイチのマザーテレサ」と呼ばれている誇れる先輩もおられます。このように本学はバランスのとれた大変良い大学です。皆さんは今日から関西医大生です。どうぞ愛校心と誇りを持って歩んでください。そして皆さんが将来、関西医大を、ひいては日本の医学を背負ってくれるものと信じています。

皆さんに「よく学び、よく遊べ」「広い視野」「奉仕の心」「愛校心」の4つの言葉を贈り、また健康に留意され、実り多い学生生活を送られますことを祈り、私の告辞といたします。本日は誠にありがとうございます。



告辞を述べる山下学長

平成23年度 医学部・新入生

学長選挙で山下敏夫現学長が再選

本学学長選考規程にもとづく学長選挙の結果について、2月9日付け学長選挙管理委員会より、無投票(単一候補により)で、学長候補者の山下敏夫を当選者と決定することが公示されました。任期は平成23年4月1日から2年間。

副学長再任

本学副学長が次のとおり再任されました。

副学長再任 伊藤誠二(平成23年4月1日～平成25年3月31日まで)
 ” 澤田 敏(平成23年4月1日～平成24年3月31日まで)

名誉教授称号授与

本学名誉教授称号授与規程の定めるところにより、教授会の議を経て、名誉教授称号が次のとおり4月1日付け授与されました。

第88号 河本圭司 前脳神経外科学講座教授

平成23年度事業計画と予算について

平成23年度の事業計画と予算の概要を紹介します。本年度は中期経営目標“アクション2015 行動する関西医大”の中間の推進時期にあたり、長期資金収支計画並びに平成23年度予算に基づいて、枚方新学舎の建設工事着工をはじめ、附属3病院物流一元化の一層推進、卒前6年一貫教育のカリキュラム構築の推進、補助金・助成金の獲得、3病院の特性を生かした医療の提供、等の事業を実行することです。予算については、平成23年度は経営の体質改善をさらに進めて収益性・効率性を高める絶好の機会と捉えて、学舎建設や附属滝井病院維持改修等の将来の重要事業の推進に向けて収益面・資金面の強化・拡充を目指します。

平成23年度事業計画

1. 全体概要

法人主要事業は、枚方新学舎の実施設計を経て本體工事を6月から開始し、併せて法的諸手続き、研究設備等移転準備調査、等を行います。学舎新築に伴う資金調達並びに法人財政基盤強化の一環として、3病院物流一元化、法人支出削減、および地域医療促進のための作業部会活動を継続します。また、法人のソフト面である人事給与制度改革、人材育成トータルプランおよび学舎移転に伴う法人組織再編計画を推進します。

教育事業は、医学教育では卒前6年一貫教育について医学概論、英語教育、態度・人間性教育、国外を含む臨床実習、合否判定、学籍システム、等の充実・強化を図ります。大学院は、入学促進のための臨床研修社会人コース・臨床系社会人コースの周知、一般院生の増加、並びに大学院教育実質化対応補助金の獲得を目指します。看護教育は、入学生の安定確保、国試合格率アップ、教員研修・支援の充実を図ります。卒後研修・支援では、研修医・看護師・女性医師の各支援部門の活動および広報を強化し学外との連携を図ります。図書館は運営充実を図り、新図書館移転計画を立てます。

研究事業は、補助金・助成金の獲得、受託研究・共

同研究・大学間および産学連携の推進、高度医療人育成等マンパワーのアップ、附属生命医学研究所および研究部門・共同利用研究部門における活動強化、共同研究講座(大塚製薬株式会社)および寄附講座(泉大津市、名張市、小児科学講座)の継続と研究の推進を図ります。

医療事業は、附属枚方病院、附属滝井病院、香里病院の3病院体制が整ったのを梃子に、地域医療・医療安全・医療の質の向上に一層傾注し、地域と3病院の特性を生かした医療を提供し、併せて法人の財政に寄与するよう、3病院それぞれが掲げた具体的な数値目標と課題目標を全教職員と共有し、チーム医療並びに地域連携を推進して事業目標の達成を図ります。

経営・管理事業では、常任理事会直轄の3企画室、財務部、用度部、施設部、総務部、大学情報センターおよび内部監査室、並びに3病院事務部との密なる協働のもと、長期資金シミュレーションに沿った財務管理、設備投資・資金調達計画、教育研究基盤整備、用度・管財はじめ全部門による業務およびコストの改善、人材育成、安全衛生・健康管理、広報、制度および組織の点検、情報管理、自己点検・評価、内部監査の充実を図ります。

法人推進事業の7項目の詳細は次の通りです。

法 人

2. 枚方学舎建設事業

枚方新学舎建設計画は3年目に入り、基本設計図書、実施設計図書作成を経て工事着工の年度となります。そのため、①前年度に続き実施設計図書を作成、②監督官庁に対し開発申請、高規格堤防、防災評定、構造評定、確認申請等の最終調整並びに許可申請の実施、③工事は、工期約20カ月の予定で平成23年6月に着工、④新学舎は、基本的に既存機器備品等を移設する方針で建設する。従ってこの移設機器の集計を行い施工時への適切な資料となるようにデータを整備（移設機器の確認作業、機器の配置先の図面上での組付け確認作業）、⑤施設整備企画室、教育研究基盤整備企画室、財務部、等が協同して、外部資金獲得を推進、等を実行します。

3. 附属3病院物流一元化

前年度に続き理事長直轄の附属3病院物流一元化作業部会活動において、附属3病院の物流システムを一元化して、薬品、診療材料、医療機器等の同一品目を一括購入し、併せて購入価格を低減する方策を検討し実行します。用度部が全部署の物流業務を統括できるように用度組織を見直し、最終的に物流センターの創設を目指します。

すなわち、①同種同効品の集約と一括大量購入による価格低減、②病院間で異なる診療材料購入価格の低減・統一、③診療材料の償還対象外品から償還対象品への切換え、④薬品購入価格低減等について、附属3病院を横断的に検証し、経費削減対策を一層推進します。

4. 大学（法人）支出削減

理事長直轄「法人支出削減作業部会」活動において、「やれるものは徹底的にやる、やろうとしてみてもやれないものはその阻害要因を除去する」との方針のもと、①新しい予算作成手順と実績管理方法の確立、②物品調達における5社見積り実施、③機器等購入時の保守料を含んだ見積りと競争入札実施、④機器修理簿作成と当該機器の使用頻度、収支状況把握、⑤コピー経費削減、⑥院内医療経費削減チーム創設と診療科の指導体制整備、⑦後発薬品の使用推進、⑧薬剤廃棄予防策策定と徹底、⑨診材値引き率改善、⑩部署別経費削減コンペ、⑪事業仕分けを通じた組織見直し、時間外勤務削減および業務委託見直し、⑫印刷物削減と撤廃、等の改善を行います。なお本作業部会は一定の成果を上げた後も、継続した活動を展開します。

5. 地域医療促進

法人の中長期ビジョンである「大阪北東部、とくに

京阪電車沿線に特化した地域の健康・医療・福祉を担う」に従い、理事長直轄「地域医療促進作業部会」が中心となって、①患者の相互紹介を目的とした地域中核病院等との「連携病院の会」発足、②地域医師会等と各科および各病院が交流・懇談する会の創設、③健診、人間ドック等の予防医学の充実と、OMMメディカルセンターの機能強化および附属3病院との連携強化、④地域開業医との学術交流・支援フォーラムの定期開催、⑤京阪電車沿線住民対象の「健康ステーション」構想の促進等を検討し、優先順位の高い施策を具体化し、可及的速やかに実行に移します。

6. 人事給与制度改革

平成21年度から開始したチャレンジシートによる目標管理制度の試行を継続して実施体制を改善します。常任理事会に設置した「人事給与制度改革推進JPT（常任理事会プロジェクトチーム）」において、推進の障害となる諸課題、すなわち法人目標と部署目標との整合性や妥当性、目標設定が困難な職員への対応、目標設定と考課のあり方、考課者スキルの向上、必要部門への入力端末や面接場所の整備、制度改革推進の要員確保等、考課者に対する目標設定・面接・考課に至るまでの研修等の実施体制の整備充実を図ります。

また、「新人事制度マニュアル（案）（平成20年7月暫定版）」を点検し、平成25年度人事給与制度改革の施行に向けた最終案を策定します。

7. 人材育成トータルプラン

人材育成中長期戦略の策定を目的とする「人材育成トータルプラン策定JPT」において、職員構成、各職種の人材育成の現状と課題の点検および今後の研修計画のあり方について検討しました。

平成23年度は、看護職の研修体制は現行どおり継続し、研修体制の充実が急務な事務職について、上記課題となる将来を担う人材育成、研修計画の継続性、研修後の有効性の評価、年齢分布の平準化と採用計画の確立、研修企画の立案や実施にかかる新たな専任部門の創設、等を念頭に「内定者研修」、「新任職員集合研修」、「入職後3年目までの職員研修」、「中堅研修（主任・係長）および中間管理職者（課長）研修」、「幹部（次長・部長）研修」等階層別教育による中期事務職員研修計画と教育体制を確立します。また、将来の大学運営を担える人材の育成を期して、人材育成の基本指針を策定します。

8. 平成25年度法人組織再編計画

キャンパス統合後の法人組織・人員配置計画の策定

法 人

を目的とする「平成25年度法人組織再編計画JPT」において、前年の各部門組織のあり方・機能見直し等の検討に引続き、「滝井、牧野各キャンパスの統合による学部事務部（総務部、財務部、用度部含む）業務の再検討」、「大学事務局が担ってきた人事・給与・経理・用度・施設各業務の附属滝井病院への移行と関連部門の機能見直し」、「健康管理センターのあり方」、「図書館本館機能の新学舎移行に伴う分館・分室のあり方」、「附属枚方病院と法人組織の機能分担の検討」、「附属看護専門学校の牧野キャンパス移転に伴う看護学部も含めた機能見直し」等について、解決案を策定します。また、策定結果を待って、総務部で新卒者採用および人事異動の計画の基礎資料を策定します。

平成23年度予算

平成23年度予算の概要は次のとおりです。

収入の部では、減収要因として、①新入学生の入学時の一時的な負担を軽減するため学生生徒等納付金の初年度納付金を1百万円減額したこと、②寄付金は枚方キャンパス統合移転整備事業募金分に一本化したうえでこれを別枠として扱い、予算は通常分のみ計上したこと、③補助金は平成22年度の特種要因の反動で減少すること等があります。一方、増収要因としては、医療収入は診療報酬改定影響をそのまま織り込み、附属枚方病院が黒字を続けることに加えて附属滝井病院、香里病院が黒字化することから、全体として大幅増を見込んでいます。ここ数年先送りを続けてきた保有株式の売却については、資金確保の必要性が薄れ、株価水準も低位にあることから計画から外しています。そ

の結果、帰属収入は50,448百万円、平成22年度予算比884百万円増としています。

支出の部では、経費増加要因として、人件費が香里病院等の人員増や待遇改善を盛り込んで増加すること、医療経費が薬品費を中心に増加すること、経費減少要因としては、教育研究・管理経費が香里病院開院関係費の反動減、予備費の減少（平成22年度は診療報酬改定影響見込相当額5億円と香里病院開院関係予備費1億円を計上していました）があり、消費支出計では977百万円増とする計画です。この結果として、帰属収支差額は3,453百万円の黒字とする計画です。

キャッシュフローでは帰属収支差額に減価償却を加えた営業活動によるキャッシュフロー（実際に使うことができる金額）は6,937百万円となり、これを原資として、特定預金の取り崩しや一部借入れによる補強を行ったうえで、枚方新学舎の工事着手金や中間金を支払い（計4,400百万円）、借入金返済（3,098百万円）、割賦支払（579百万円）をまかない、将来の投資への積立金の積み増しとして18億円を行って、そのうえでさらに余剰資金10億円を残す計画としています。

以上のように、平成22年度が補助金に依存した予算であったのに比べて、平成23年度は医療収入の着実な改善によりほぼ同水準の帰属収支差額を目指す意欲的な予算となっています。

大学・病院の経営を巡る社会・経済環境が今後どのようなようになっていくかは予断を許しませんが、どのような環境変化にも耐えうる強靱な経営体質を築くために、平成23年度は足許を固め、将来への備えを進める1年にいたしたいと考えております。

平成23年度 予算消費収支計算書概要

（単位 百万円）

項 目		平成23年度 (予算)	平成22年度 (予算)	増減金額
帰属収入	学生納付金	3,391	3,515	△124
	寄付金	582	706	△124
	補助金	1,847	4,986	△3,139
	医療収入	43,281	38,928	4,353
	雑収入他	1,347	1,168	179
	資産売却差額	0	261	△261
	小計 ①	50,448	49,564	884
基本金組入額 ②	△7,597	△8,973	△1,376	
消費収入合計 ③=①+②	42,851	40,591	2,260	
項 目		平成23年度 (予算)	平成22年度 (予算)	増減金額
消費支出	人件費	21,956	21,219	737
	教研・管理経費	8,034	8,559	△525
	医療経費	12,680	11,307	1,373
	減価償却額	3,481	3,416	65
	その他の経費	843	1,516	△673
	合計 ④	46,994	46,017	977
消費収支差額 ③-④	△4,143	△5,426	1,283	
帰属収支差額 ①-④	3,453	3,547	△93	
キャッシュフロー	1,008	208	800	

（注）百万円未満を四捨五入表示しているため合計と一致しません。

法人

医療・介護分野の高度化目指す 大阪電気通信大学と学術協定

本学と大阪電気通信大学の「学術交流に関する包括協定・締結式」が4月27日(水)午前11時30分から、大阪電気通信大学寝屋川駅前キャンパスで開催され、本学から山下敏夫理事長・学長、伊藤誠二副学長、澤田敏副学長、藤澤順一産学連携知的財産統括室長、三島健同室顧問ら7名が出席しました。

式典の冒頭、福田國彌大阪電気通信大学理事長が「医療と福祉の分野の連携を強め、両大学の発展につなげたい」、山下理事長・学長が「同じ地域にある両大学が協力し、大阪北東部の健康、医療、福祉の分野で貢献したい」と、それぞれ力を込めて挨拶し、続いて山下理事長・学長、福田理事長、都倉信樹同大学学長が協定書にサインしました。

この協定は、相互に連携して学術交流、及び技術交流を促進させ、学術・文化の進展と科学技術の高度化を図ることが目的で、「科学技術情報の交換、分析及び活用」「共同研究の実施」「地域医療への貢献」などの事業を行う予定です。既に、山田久夫教授(解剖学第一

講座)担当の「骨伝導を利用した日常生活におけるQOLの向上を実現する製品の開発」、海堀昌樹講師(外科学講座)担当の「手術用ナビゲーションシステムによる手術精度の向上を実現する製品の開発」、三宅真理講師(公衆衛生学講座)担当の「介護現場における要介護者と介護者の身体的負担の軽減のための基礎研究」の3プロジェクトがスタート、その成果が期待されています。



福田理事長(右)、都倉学長(中央)とがっちり握手を交わす山下理事長・学長

新規入職者168名 決意新たに 新規入職者の入職式を挙

平成23年度の一般職新規入職者は168名で、4月1日(金)に附属枚方病院、附属滝井病院、香里病院でそれぞれ入職式が挙行されました。内訳は大学事務局1名、附属枚方病院103名、附属滝井病院53名、香里病院11名で、新入職者たちは高い志を胸に決意を新たにしました。

附属枚方病院では午前9時30分から13階講堂において、今村洋二病院長を始め関係者の出席のもと挙行されました。今年は計103名の新入職者を迎え、今村病院長から代表者に辞令が手渡されたほか、病院長からのプレゼントとして、歌手・植村花菜さんのDVD「トイレの神様」が上映されました。附属滝井病院では午前9時から6階講堂において執り行われ、計53名が入職し、岩坂壽二病院長から辞令が手渡



高山香里病院長から辞令を手渡される新入職員

された後、激励の言葉が贈られました。開院後初となる新卒職員が入職した香里病院では、午前9時から8階会議室において執り行われ、高山康夫病院長から新入職者11名に辞令が手渡され、高山病院長と矢野愛子看護部長は挨拶で、新入職者を激励していました。

新入職者たちは各部門に配属され、日々奮闘中です。皆さまの温かいご声援をお願いします。

新入職者の配属部署は以下の通り。

〈大学事務局〉		〈附属滝井病院〉	
事務員	1名	看護師	45名
〈附属枚方病院〉		臨床検査技師	1名
助産師	3名	診療放射線技師	2名
看護師	86名	理学療法士	3名
診療放射線技師	2名	事務員	1名
作業療法士	1名	診療情報管理士	1名
理学療法士	3名	〈香里病院〉	
臨床工学技士	1名	看護師	10名
事務員	4名	理学療法士	1名
診療情報管理士	3名		

新入職員が集合研修

平成23年度一般職系新入職員168名の研修は、4月6日(水)に附属枚方病院で実施され、引き続き、翌7日(木)には看護職を除く新入職員24名と平成22年度事務職中途入職者7名を加えた計31名の研修が専門部学舎、および附属滝井病院において実施されました。この研修の目的は「職業的自立と組織人的意識の確立を促す」でした。

2日目の研修では、出席者は「人間関係とチームワークについて」をテーマに5グループに分かれて集団討論やプレゼンテーション資料の作成などのグループワークを行い、それぞれまとめた意見を発表しました。出席者たちは終始、真剣な表情で取り組み、活発な意見交換を繰り返して、それぞれ交流を深めていました。最後は「私の職業人としての目標」と題した感想文を作成しました。

法人

退任の挨拶

退任にあたり

前脳神経外科学講座 教授 河本 圭司



1963年に関西医科大学に入学してから48年間、そして1993年に脳神経外科学講座の3代目教授に就任して17年間があったという間に過ぎましたが、感慨深いものがあります。

教室の業績は、毎年「脳神経外科 年報」として17年間、発刊してきました。教授になってから、診療、教育、研究、そして大学外でも活動してきたかと思えます。対外的に私立大学出身で研究活動することは、初めはなかなか困難でありましたが、いくつかの研究会を立ち上げるうちに、学会に昇格していき、多くの仲間ができました。学閥や出身大学とは関係なく発展していきました。関西医科大学の看板を背負いながら全国学会のリーダーになりえることが出来たのは、私の人生で大きな収穫でした。そして、これらの学会のいくつかは関西医大の伝統として受け継いでいけるようになりつつあります。

学内ではボランティア活動で「International Friendship Society (IFS)」を設立し、多くの教職員の方々とともに、本学の留学生を支援し、国際交流

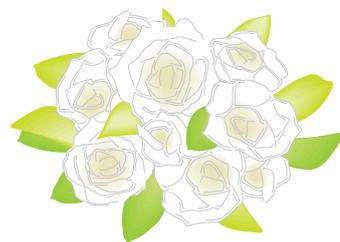
を確立したことは大変意義深いと考えられます。また、日中国際親善に多少とも役立てたことは喜ばしいことでした。

また、最終講義では「私にとっての脳腫瘍学の道」と題して講演させていただき、『脳腫瘍外科学』(河本圭司ほか著、医学書院)の出版をもって、大学で脳腫瘍学の学問を3月10日に、私なりに完結できたことは幸せであったかと思えます。

教授になってから、山あり谷あり、「まさかの坂」も経験してきましたが、なんとか無事に退任することができましたのも、皆様の温かいご支援があったことによるもので、深く感謝申し上げます。

今後、ますます 母校 関西医大の発展を祈り最後の挨拶とさせていただきます。

有り難うございました。



河本前教授が最終講義

河本圭司前教授の最終講義が3月1日(火)午後2時から専門部学舎1号館第2講堂で行われました。演題は「私にとっての脳腫瘍学への道」で、山下敏夫理事長・学長をはじめ、学生、教員ら約80名が聴講しました。

河本教授は学生時代や教員・研究者としての生活について振り返り、クラブ活動に熱中していたことや海外留学で価値観の違いを学んだことなどのエピソードを披露。そして、恩師からいただいた言葉を用いて「人生には予測できない『まさか』という坂がある。この坂をいかに越えるかが勝負。皆さんの人生はこれからです」と、後輩世代にエールを送られました。さらに、脳腫瘍学への思いとして「脳腫瘍病理学的研究についてトップレベルでやってきたという自負がある」と力を込め、最後は「現在執筆中の『脳腫瘍外科学』の本がもうすぐ

完成する。それが私の48年間の集大成です」と締めくくりました。

講義終了後は教え子から花束が贈られ、聴講者たちとの記念撮影が行われました。



退任にあたり

前整形外科科学講座 診療教授 吉田 清和



平成13年9月11日、米国同時多発テロの日、急遽関西医科大学リハビリテーション科（以降、リハ科）の菅俊光先生が、飛行機が飛び立つまでの1週間、シカゴ市郊外にある私の家に滞在したことから私の関西医科大学との関係が始まりました。本学や

日本のリハの実情について毎晩遅くまで議論したものでした。それから5年後、私が60歳の時の平成18年6月、関西医科大学リハ科診療教授に赴任しました。日本は定年制がありますので、初めから65歳までの5年間のつもりでした（米国では定年制は年齢による差別にあたり違法です）。

日本での5年間は一瞬でした。米国ではリハ専門医はどんな小さい大学でも最低20人おり、多い所は50人ですから、レジデントと併せるとリハ科医師数は40～100人が一般的です。しかし本学は、附属枚方病院では1人、附属滝井病院と併せて一番多かった時でも5人でしたので、すべてが戸惑いでした。毎週3～4人の学生が来て、診療も500～700床の入院患者を診なければならず、結果として研究はほとんどできず、診療内容は質が低く、教育も手薄でした。その中で米国と比較して最も差が大きかったものが教育でした。臨床実習をみても、米国では学生とベッドサイドでの1対1の教育が原則ですが、日本は見学がほとんどです。また、日本では米国式教育法、臨床実習法を取り入れています、それも名ばかりで、実質はみじめなものです。さらに屋根瓦方式、チュートリアル、ベッドサイド教育など、米国教育方式の言葉は使われていますが、まったく空回り、米国とは似ても似つかないのが現状でした。こうした理由は教員数、教育時間、教育予算などがすべて足りないからです。

この状況を受けて、自分ができることで、かつ学生にとってもっとも大切なものは1つしかないと考えました。それは学生教育です。学生一人ひとりに病歴の正しい取り方や症例のプレゼン方法、診察の仕方、そして病歴の書き方を毎日一例一例丁寧に教えることにしました。5年間の在職中、朝8時から夕方遅くまで、およそ400人の学生に接してきました。その結果、本学の学生は米国の学生と比べて、決して能力は劣ってい

ないことを確信しました。教えられていないのです。教育されていないのです。教員の絶対数が不足し、大学の3つの機能、すなわち診療、教育、研究の中で、教員は診療と研究に時間の大半を費やし、教育時間が極端に少なくなり、結果として学生は自習せざるを得なくなっているという本学の現状を知りました。

赴任から5年後、退任間近の平成23年3月11日に東北地方太平洋沖地震が起きました。「911」と比べ、「311」は死者、規模、影響力などすべての点で比較にならないほどの大地震と津波、そして原子力発電所放射線漏れ災害が生じました。日本は国土の70%は森で、緑が多く、美しい島国です。気候も温和で理想の楽園です。過去に幾度も台風や地震が猛威をふるいましたが、それらと付き合いながら現在の日本を創ってきました。今こそこの危機を脱し、次の新しい段階に進む必要があります。日本人は過去に幾度もあった国難を巧みに切り抜けてきています。過去30年間日本の人口の少子高齢化は進行し、医師数を抑制し、教育とくに大学教育予算を抑制し、医療費、教育費ともに日本は世界で20位以下となり、さらに最近では膨大な国の赤字を抱えています。この時期にこのような災害が生じ、まさに国家の危機です。今こそ国家100年の計をたて、国の発展、国土の復興と医療・教育への長期的投資をしなければなりません。まさに前例、しがらみ、固定概念など古いものにこだわらない斬新な政策があらゆる面で必要です。英知と団結をもてばきっと復興し、医学、医療、教育の各分野においても世界の一流になれると信じています。

わずか5年間でしたが、日本についてさらに深く知ることができ、その機会を与えてくださった関西医科大学に感謝とお礼をここに申し上げます。



脳神経外科の指導者の育成をめざして

脳神経外科学講座 教授 浅井 昭雄



平成23年4月1日付けで、関西医科大学脳神経外科学講座の主任教授を拝命いたしました。ご推挙いただきました多くの先生方に心より御礼申し上げます。また、5年前に埼玉医科大学総合医療センターから診療教授として枚方病院に赴任いたしました。

以降、多くの皆様に大変お世話になりましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。

この5年間は診療教授として、脳神経外科診療体制の整備と強化、学生に対する脳神経外科教育、若手～中堅医師に対する手術教育に重点を置いてまいりました。その成果があつてか、学内の皆様あるいは周辺地域の医療機関の皆様の信頼を得ることができ、手術症例が右肩上がりに増えてきており、また、待望の新入医局員も誕生するにいたっております。

今回、講座主任を拝命いたしまして、これから進めていきたいことへの期待に胸が膨らむと同時に、その責任の重さに身の引き締まる思いでもあります。私はあと13年の在任期間を使って、指導的立場に立てる脳神経外科医の育成をめざしたいと思います。脳神経外科医はあくまでも外科医ですから、メスが一人前に切れてはじめて評価されるものと確信しています。これは脳神経外科医の存在の根幹にかかわる大前提です。ですから、まず、これまで通りメスが一人前に切れるような脳神経外科医を育てる教育を続けていきたいと思ひます。

次いで、手術ができる脳神経外科医には、科学的、合理的なものの考え方が必要です。そのためには多少なりとも科学の世界に身を置く必要があります。私は「膠芽腫癌幹細胞を標的とした樹状細胞治療の確立」と「脳卒中後の片マヒに対する幹細胞移植による神経再生治療の確立」という、2つの臨床研究を二本の大きな柱として関係各部署の皆様のご協力を仰ぎながら進めていきたいと考えています。そこから派生して出てくる基礎研究の題材が多々あると思ひますので、基礎の教室の皆様にご協力をお願いして、若い脳神経外科医にしばしの間、基礎研究の勉強もしてもらいます。この経験が脳神経外科医を一回りも二回りも大きくします。

このように「文武両道」を修めた脳神経外科医に最後に必要となるのが胆力（勇気）です。脳神経外科手術の成功不成功は、いかに適切なstrategy（手術アプローチ）を選択するかということと、術中に起こりうる事態をいかに数多く予測しそれらへの対応を準備しているかということにかかっていますが、それでも不測の事態は起こりえます。その際にパニックを起こさず、いかに冷静かつ大胆に対応できるかというのが胆力です。これは経験とともに備わってくるものと考えます。こうした具合に手術の腕という武器とそれをうまく使いこなす智恵と胆力を兼ね備えた本学の脳神経外科医が脳神経外科の指導者として数多く巣立っているよう指導していきたいと思ひます。

今後とも何とぞ皆様のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

— 略 歴 —

昭和56年3月	東京大学医学部医学科卒業
昭和56年6月	東京大学医学部脳神経外科入局
昭和62年9月	Division of Neurosurgery, The Hospital for Sick Children, Toronto (Clinical Fellow) 留学
昭和63年9月	Brain Tumor Research Center, Dept. of Neurosurgery, UCSF (Postdoctoral Fellow) 留学
平成2年10月	国立がんセンター生物物理部研究員
平成6年4月	東京大学医学部脳神経外科講師
平成14年7月	埼玉医科大学総合医療センター脳神経外科講師
平成16年8月	同助教授
平成18年4月	関西医科大学脳神経外科学講座診療教授
平成23年4月	関西医科大学脳神経外科学講座主任教授



特 集

「夢の新学舎」実現へ 6月から建設開始

関西医大の歴史が動き始める。5月28日(土)に枚方新キャンパスの起工式が举行されます。いよいよ私たちの夢が詰まった学園の建設が始まります。新キャンパスの敷地は甲子園球場のグラウンド面積のおよそ2個分に相当する2万5千㎡と広大で、附属枚方病院の北側に建設されます。学舎は3階建ての低層棟、8階建ての中層棟、13階建ての高層棟の3棟が「コの字」状に配置されます(模型写真参照)。

工事は今年6月に着工、一年半後の平成25年1月に完成し、平成25年4月に開設する予定です。新キャンパスの概要については、既報のVol.7(平成21年11月27日発行)で報じておりますので、広報誌ではこれから随時、新キャンパスのポイントを紹介し、皆様とともに完成までの道のりを楽しんでいきたいと思っております。

今号は1階部分です。

1階の紹介

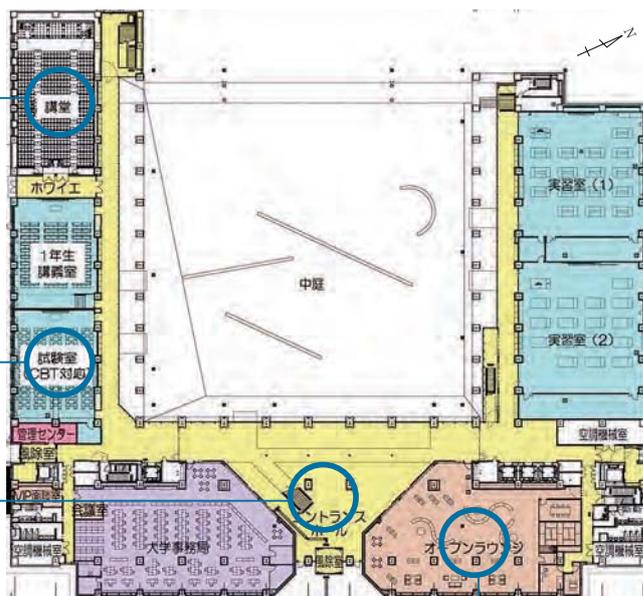
◆講堂兼体育館、試験室

300人収容の講堂は収納可能なロールバックチェアを装備しており、チェアを収納すると、講堂がバドミントンを楽しめる広さの体育館へと変身します。このほか、

150名の対応が可能な試験室や集会場としても利用可能なオープンラウンジスペースが設けられます。



新学舎の模型写真



◆エントランスホール

正面玄関を入ると、2階部分までが吹き抜けのエントランスホールへと続きます。このホールからガラス越しに眺めると淀川河川敷へとつながる50m四方の中庭が広がります。まさに「憩いの空間」です。



エントランスホールイメージ

◆オープンラウンジ

正面玄関からエントランスホールに入ると、大きな窓ガラス越しに芝生の中庭が広がる光景を目にします。このホールの北側に隣接したオープンラウンジは500㎡という広大なスペースです。随所にモダンな机や椅子が配置されるリラックス空間で、授業に関する情報



オープンラウンジイメージ

が液晶モニターに映し出されるコーナーや、国際交流センターのブースなど、学生たちが様々な情報を交換する交流の場として、学内の活性化を図ります。

特 集

関西医科大学枚方キャンパス 統合移転整備事業募金のご案内

本学では「枚方キャンパス統合移転整備事業募金委員会」を立ち上げ、現在、募金活動を鋭意推進中です。本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

募金趣意書

関西医科大学は、昭和3年に開校した大阪女子高等医学専門学校を前身とし、今日まで7,500余名の医師を輩出してきた80余年の伝統を持つ医科大学です。

本学では、これまで施設整備のため、平成11年に総合施設整備の大綱方針を定め、その中核事業として平成17年に附属枚方病院を建設し、平成22年には香里病院を新たに建設して参りました。この間、本学は大学としての本来の使命である医学教育の充実に向けた新たな方針を中長期の経営計画の中で構築し、附属枚方病院の開院10年後としていた新学舎の建設を前倒して進めることを機関決定致しました。

本事業は本学が医科大学としての使命を果たし続けるために、最先端の医学教育、研究及び診療の効率的な組織再編を図り、滝井地区、牧野地区、枚方地区に分散していた教育、研究機能を枚方校地に集約するものです。これにより平成25年春には教育・研究・診療が一体化して一元的に行える理想的な学園の建設という本学の永年の夢が実現することになります。

この夢の実現に向けて教職員一同最善を尽くす所存ではありますが、本学を取り巻く社会経済的情勢は依然として厳しいものがあり、皆様のご支援なくしてはこの夢を実現することはできません。

つきましては、本事業が無事完遂するよう皆様方の温かいご理解とご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

平成23年4月

関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金委員会
 学校法人 関西医科大学 理事長・学長 山下 敏夫
 関西医科大学同窓会会長 秋田 光彦
 財団法人加多乃会会長 鮫島 美子
 関西医科大学慈仁会委員長 梅畠 圭吾

寄付金

平成22年度 寄付金実績報告

施設設備整備拡充資金の実績は次のとおりです。ご寄付いただきました関係各位に改めて篤く御礼申し上げます。

〈総 額〉 8,808万2千円

枚方キャンパス統合移転整備事業寄付金 入金状況

〈総 額〉 1億1,813万円



特 集

夢実現に向けて気運高まる

枚方キャンパス統合移転
整備事業募金委員会 開催

枚方キャンパス統合移転整備事業募金委員会の第1回会合が3月19日(土)午後4時から附属枚方病院13階講堂で開かれました。卒業生や在学生保護者、本学関係者及び教職員ら94名の委員が出席し、“夢”実現に向けて気勢を上げていました。

冒頭、募金委員会委員長の山下敏夫理事長・学長が挨拶し「本学の80数年の歴史で夢見てきた真の学園の



協力を呼び掛ける山下理事長・学長

誕生に向けてご協力をお願いします」と力を込めました。続いて、澤田敏副学長・施設整備企画室長が新学舎の建設概要について、岩坂壽二附属滝井病院長・財務担当理事が募金計画及び大学の将来図について、出水順治募金室長が寄付金の募集要項についてそれぞれ説明し、さらに、募金委員会委員の役割分担も紹介されました。



秋田同窓会長

委員会の後に附属枚方病院内のレストランのぞみで開かれた打合せ会では、冒頭の挨拶で秋田光彦同窓会長・募金委員会副委員長が「山下理事長の胸の内を鑑みますと、皆さんに一肌脱いでほしいという心境だと思います。本学の夢を実現し、私立医大の雄として一段と飛躍できるよう守り立ててください」と熱く語られ、さらに中締め挨拶では徳永力雄常務理事が協力を呼び掛けました。

枚方キャンパス統合移転整備事業寄付金の募集要項

1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

2. 募集金額

1口10万円・申込口数1口以上
できるだけ多数口のご協力をお願い申し上げます。

3. 募集時期・期間

- 第1期募集(平成23年度)
申込期間 平成23年4月1日～平成24年3月31日
払込期間 平成23年4月1日～平成24年3月31日
- 第2期募集(平成24年度)
申込期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日
払込期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日
- 第3期募集(平成25年度)
申込期間 平成25年4月1日～平成25年12月31日
払込期間 平成25年4月1日～平成25年12月31日

4. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印の上、お申込ください。

寄付申込書は下記の3種類がありますので、いずれかをご提出ください。

- ・個人の場合：特定公益増進法人申込書 (様式A)
- ・法人の場合：(1)特定公益増進法人申込書 (様式B)
- (2)受配者指定寄付金申込書 (様式C)

5. 払込方法

一括払込と分割払込の2種類があります。さらに払込方法は下記の5種類があります。

〈一括方法〉

- a.ご自身で各金融機関から払込む
- b.自動引落(預貯金口座)
- c.自動引落(診療報酬) ※大阪府医師信用組合
- d.教職員給与天引き
- e.現金または小切手

〈分割方法〉

- a.ご自身で各金融機関から払込む
- b.自動引落(預貯金口座)
- c.自動引落(診療報酬) ※大阪府医師信用組合
- d.教職員給与天引き
- e.現金または小切手

6. お問い合わせ先

関西医科大学枚方キャンパス
統合移転整備事業募金委員会事務局
〒570-8506
大阪府守口市文園町10番15号 関西医科大学募金室
TEL：06-6993-9556(直通)
FAX：06-6993-5221
E-mail：bokin@takii.kmu.ac.jp
URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html

ご不明な点は募金室までご一報ください。

大 学

第105回医師国家試験結果

「第105回医師国家試験」の結果が3月18日(金)に厚生労働省より発表されました。新卒受験生108名のうち91名が合格し、合格率84.3%、既卒者は8名のうち2名が合格。新卒者・既卒者を合わせると116名中93名が合

格、合格率は80.2%という厳しい結果となりました。

この結果を受けて緊急にアドホック委員会の国試対策委員会を設置し、来年度は合格100%を目指します。

平成22年度卒業生進路 34名が本学研修

平成22年度卒業生107名の進路は、本学研修が昨年と同じ34名となりました。このほか、国立大学病院8名、公立大学病院5名、私立大学病院7名、市中病院33名などとなっています。

平成23年度大学関係役職員新体制

4月1日(金)から平成23年度の大学関係役職員体制が下記のとおりスタートしました。

●大学関係役職員

学長		山下 敏夫	副学長		伊藤 誠二 澤田 敏
主事	教養部	木原 裕	教務部長	専門部	藺田 精昭
				教養部	藤井 茂
学生部長	専門部	山田 久夫	大学院医学研究科教務部長		木梨 達雄
	教養部	中川 淳	附属図書館長		西山 利正
附属生命医学研究所長		木梨 達雄	総合研究施設長		中邨 智之
実験動物飼育共同施設長		藤澤 順一	ブレインメディカルリサーチセンター長		伊藤 誠二

平成23年度クラスアドバイザー決定

第1学年 (A)	楠本 邦子	准教授
〃 (B)	木村 穰	教授
第2学年	上野 博夫	教授
〃	楨 政彦	講師
第3学年	螺良 愛郎	教授
〃	垠 貴司	講師

第4学年	岡本 祐之	教授
〃	爲政 大幾	准教授
第5学年	楠本 健司	教授
〃	鈴木 健司	講師
第6学年	金子 一成	教授
〃	木下 洋	准教授

大 学

慈仁会役員会と総会

2月5日(土)午後3時30分から専門部学舎において、平成22年度後期の慈仁会役員会及び特別事業委員会が開かれました。山下敏夫学長はじめ教職員12名、慈仁会役員15名が出席し、特別事業委員会報告、平成22年度事業報告及び収支中間決算報告、平成23年度事業計画及び収支予算案、役員改選などの議案のほか、平成23年度予算においては、枚方新学舎建設に係る賛助金として1億円を計上することが説明され、いずれも了承されました。

また、4月5日(火)の入学式後の午後2時40分からは、平成23年度慈仁会定期総会並びに新入生保護者懇談会が教養部学舎第1教室において開かれました。慈仁会総会では山下学長はじめ、教職員、慈仁会・同窓会関係者、保護者ら約120名が出席し、平成22年度事業報告及び決算、平成23年度事業計画及び予算がいずれも承認されたほか、新1学年の委員の推薦、役員改選が行われました。新役員は次の通り。

委員長	梅壽 圭吾
会計委員	前田 憲男
常任委員	三谷 武生(3学年)
常任委員	塩田 啓仁(1学年)
委員	谷口 浩也(1学年)
委員	玉垣 千春(1学年)



定期総会の冒頭、挨拶する山下学長

名張市との寄付講座設置協定書を締結 発達障害児を支援

本学と三重県名張市との寄付講座設置協定書の調印式が1月12日(水)、名張市役所で開かれ、本学の金子一成教授(小児科学講座)と亀井利克名張市長が協定書を締結しました。期間は平成26年3月末までで、名張市から補助金を受けながら、心身症専門の小児科医を派遣し、発達障害児の支援や障害の研究を進めます。金子教授は「現場で診察することは、お母様、お子様、小児科医にとって一番。小児科医を現場で教えながら育成するという意味でも重要。できれば期間を延長してやっていきたい」と期待を込めていました。



亀井名張市長(左)とがっちり握手する金子教授

学術フロンティア推進事業が終了

文部科学省の「学術フロンティア推進事業」の支援を受け、平成18年度に滝井キャンパスに開設したブレインメディカルリサーチセンター(BMRC)の「修復再生医



学術フロンティア推進事業について総括する伊藤センター長

学による神経系難治性疾患の治療に向けた横断的トランスレーショナル研究」が3月に終了しました。

2月3日(木)には附属滝井病院南館臨床講堂で、京都府立医科大学大学院医学研究科解剖学・生体構造科学部門の河田光博教授による「脳とホルモン：分子イメージングから行動まで」をテーマにした講演がありました。

また、3月24日(木)には同講堂で「終了報告会」が開かれ、約70名が参加しました。冒頭に山下敏夫学長が同事業終了にあたっての挨拶を行った後、伊藤誠二センター長が5年間の研究成果や今後のビジョンについて総括し、続いて「神経系難治性疾患の病態解明と治療戦略」「難治性慢性疼痛の病態解明と再生治療」「組織幹細胞の同定と細胞移植への応用」の各テーマについて、6名の講師による講演が行われました。

大 学

平成22年度 教員評価優秀者を選出

教員評価委員会は、平成21年度の「教員の活動状況調査票」をもとに平成22年度教員評価優秀者30名を選定し、3月8日（火）に附属枚方病院にて優秀者の表彰式を開きました。



教員評価優秀者30名が表彰されました

教 授

氏 名	講座名
藪田 精昭	衛生学
西山 利正	公衆衛生学
岡崎 和一	内科学第三
高橋 伯夫	臨床検査医学
中谷 壽男	救急医学科

講 師

氏 名	講座名
保坂 直樹	病理学第一
伊藤 量基	内科学第一
森本 聡	内科学第二
内田 一茂	内科学第三
阿部 哲也	心療内科学
加藤 正樹	精神神経科学
吉村 匡史	精神神経科学
海堀 昌樹	外科学
里井 壯平	外科学
楠本 邦子	物理学

准教授

氏 名	講座名
吉田 学	法医学
木下 洋	小児科学
高田 秀穂	外科学
播磨 洋子	放射線科学
北澤 康秀	救急医学科

助 教

氏 名	講座名
安室 秀樹	内科学第一
福井 寿朗	内科学第三
金田浩由紀	胸部心臓血管外科学
山崎 文和	皮膚科学
川喜多繁誠	泌尿器科学
鎌田 実	放射線科学
米虫 敦	放射線科学
依岡 寛和	産科学・婦人科学
増澤 宗洋	麻酔科学
川浦 孝之	数学

(職位は、平成22年7月調査開始時点)

第4回大学院教育ワークショップ 魅力的な大学院に向けて議論活発

「臨床と基礎の連携により研究を活性化させる」を主テーマにした「第4回大学院教育ワークショップ」が1月21日(金)午後1時から、専門部学舎1号館5階大会議室で開かれ、附属枚方病院にもテレビ中継されました。タスクフォースの木梨達雄大学院教務部長、中邨智之、柗木龍一両教務委員会委員をはじめ、教授、准教授、講師、助教、大学院生ら36名が参加しました。山下敏夫学長は冒頭の挨拶のみの出席となりましたが、挨拶では本学の大学院に関する幾つかの課題について言及した後「大学院教育の魅力につながるような有意義な議論を期待しています」と力を込めていました。

この後、千葉大学大学院医学研究院発生医学講座免疫発生学の中山俊憲教授を招き、講演が行われました。「千葉大学医学系グローバルCOEでの大学院研究教育実践」をテーマに、中山教授は平成20年度に採択された、大学、病院、研究所を横断して展開しているグローバルCOE採択プログラム「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」の概要や、申請するまでの体制の構築といった点について説明され「約10年前から臨

床教育に対する学内のコンセンサスを得て取り組んできたことが大きい」ことを強調されました。

続いて、参加者が3班に分かれ「臨床系社会人コースの検討」「基礎講座と臨床講座の研究連携」「大学院活性化の方策」の各テーマでグループ討議を実施し、それぞれの代表者がテーマごとの観点から、問題点や新たな提案について発表しました。最後は司会を務めた木梨大学院教務部長が「皆さんからのご意見を参考にさせていただき、魅力的なプログラムをつくっていきたい」と締めくくりました。



千葉大学医学系グローバルCOEについて説明する中山教授

内閣府「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に本学より2件採択

内閣府第96回総合科学技術会議において「最先端・次世代研究開発支援プログラムの研究者・研究課題」が決定され、本学からは2件、病理学第一講座上野博夫教授、薬理学講座中邨智之教授が採択されました。将来、世界の科学・技術をリードすることが期待される優れた若手・女性・地域の研究者への研究支援ならびに政府の「新成長戦略(基本方針)」に掲げられたグリーン・イノベーションおよびライフ・イノベーションの推進を目的とするもので、グリーン・イノベーション141件、ライフ・イノベーション188件、合計329件が選定されております。

両教授は採択者の中でも高額である1億7,160万円をいずれも獲得し、本学の採択数はライフ・イノベーション分野において、全国私立医科単科大学、及び西日本地区(国公立含む)医科単科大学の中で第1位、全国私立大学の中で第2位となり、非常に大きな評価を受けました。



上野 博夫 教授

(病理学第一講座)

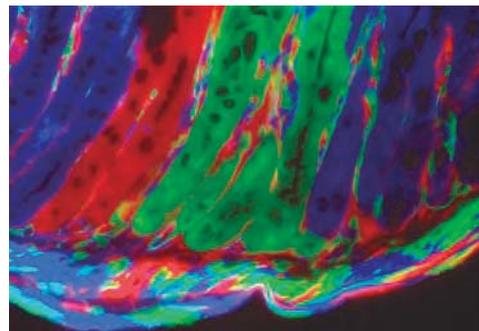
研究課題：組織幹細胞の次世代イメージングを通じた治療標的膜蛋白質の同定と新しいがん治療法の開発

ほとんどの臓器・組織の細胞では速度はまちまちですが、古い細胞が死に、新しい細胞が絶えず作られる事で組織の新陳代謝をしています。新しい組織細胞を作っている細胞が組織幹細胞です。現在では組織幹細胞は組織の老化、がん化、傷害時の組織再生など多くの重要な生命現象の中核を成すと考えられています。組織幹細胞を濃縮して投与すればこれまで再生不可能であった臓器・組織の再生の可能性も考えられます。一方で幹細胞ががん幹細胞に変化する機序がわかれば、がんの新しい治療法が開発できるかも知れません。

幹細胞の機能を正確に知るためには生体内の1個の細胞の命運を長時間追跡する方法が必須です。私はこれまで多色の蛍光蛋白質を利用する事で生体内の幹細胞を直接観察するシステムの開発に取り組んできました。これらの方法では発生段階の細胞系譜追跡や成体組織内幹細胞の動態解析が従来の方法より格段に効率化されました(写真)が、1個の細胞レベルの解析にはさらなる工夫が必要でした。

今回のプロジェクトでは、様々な最新技法を駆使し、腸を中心に種々の組織の幹細胞を共通の方法論で特異的に標識する新しい技術の開発に取り組んでおります。正常幹細胞とがん幹細胞を単一細胞のレベルで解析できれば、発現遺伝子の違いを正確に追跡する事が可能となります。この実験の結果、願わくば、がん幹細胞特異的標的分子をみつけて、それに対する分子標的治療の開発にまでつなげて行きたいと考えております。

昨年の5月に本学に着任した際には、海外からの直接赴任であった事もあり、講座のスタッフ共々力を合わせて、研究室のセットアップなど大変に慌ただしい日々を過ごして参りました。この度、関係者皆様方の多大なご支援を賜り、この様な研究費を得る事ができて大変に感謝致しております。講座にも多数の新メンバーが加入致しまして、エキサイティングな日々を過ごしております。日本にとって震災後の危機的状況の中、多大な公的資金を使って研究を行わせて頂ける恵まれた状況に感謝するとともに、皆一丸となって研究に精進して参りたいと考えております。



中邨 智之 教授

(薬理学講座)

研究課題：生体組織の伸縮性を生み出す仕組みの研究

我々の体は細胞でできていると考えがちですが、実は細胞外マトリックスが大きな割合を占めています。細胞自身は脆弱であり、細胞は細胞外に強度や伸縮性を持った構築物、すなわち細胞外マトリックスを形成し、これによってはじめて臓器や組織として機能することができます。

細胞外マトリックスは疾患や老化においても非常に重要な役割を果たしていますが、細胞外マトリックスの形成をコントロールすることによる治療というものは見当たりません。これは、細胞外マトリックス分子が概して大きく、架橋されていたり不溶化していたりして扱いにくいいため、未だその形成機構が良く理解されていないことによります。

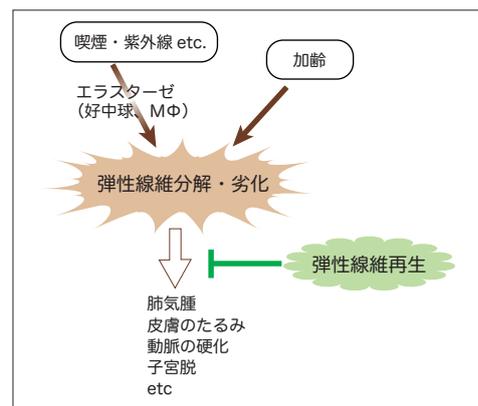
細胞外マトリックスの中でも、組織の伸縮性を担うのは弾性線維です。弾性線維は加齢や喫煙・紫外線刺激によって炎症細胞から分泌されるエラスターゼによって劣化・分解することが知られています。そしてそれが皮膚のたるみのみならず肺気腫、動脈中膜の硬化

大 学

などの老化関連疾患の直接原因となります。つまり組織の伸縮性低下は個体老化の本質的な一面であり、弾性線維の劣化防止と再生は高齢化社会における重要なテーマといえます。

弾性線維はエラスチタンパク質がマイクロフィブリルという線維に沿って沈着し、リシルオキシダーゼによって互いに架橋されてできます。しかしこのプロセスはひとりでは進みわけではなく、オーガナイザー分子を必要とすることを私たちは明らかにしてきました。これらの弾性線維オーガナイザー分子の中には、細胞培養に添加するだけで弾性線維形成を強く誘導する「弾性線維再生因子」であることに最近気がきました。これらを組み合わせると「弾性線維再生カクテル」

ができます。弾性線維の再生を分解に拮抗させることにより、皮膚のたるみだけでなく肺気腫等さまざまな老化関連疾患に対する治療法を開発すること(図)を目標に、基礎研究と開発研究を行います。



臨床実習前の医学生としての態度・人間性教育用のDVDを製作

本学では、医学生が5学年から始まる臨床実習に臨む際に、社会人として最低限身につけていなければならない態度・人間性について考えることを目的とした学習用DVDを制作しました。このDVDのタイトルは「医学生としての態度・人間性教育—医師としてのプロフェッショナリズムについて考える—」です。平成23年2月から4学年の科目「総合人間医学4」の中の「マナー・接遇」の演習で使用しています。上映時間は20分で、「通学編」、「病院実習篇」「良医をめざして」など6つのシーン別に編集されており、医学生が臨床実習の現場で、医学生・社会人としてどのように行動するべきかを自ら考えるように工夫されています。

藺田精昭専門部教務部長は「本学では、数年前より臨床実習生の態度・人間性に関する投書(苦情)が見られるようになりました。医学生に対して、講義で態度・人間性教育を行うことには限界があり、医師としてのプロフェッショナリズムについて教えることも容易ではありません。そこで、映像を使って自ら考えさせるDVDの制作を企画しました。平成22年度より、総

合人間医学4の演習の中で活用し、医学生が映像を見て気付いたこと、考えたことを記載するアンケートを実施することで、学生自身へのfeedbackを行いたいと考えています。今後、このDVDが医学生だけでなく、研修医や看護師の教育にも活用されることを願っています」と話しています。



臨床実習前の教材として製作したDVD

立命館との第3回FD/SD研修を実施

1月15日(土)午後1時30分から本学と立命館大学の共催プログラム「第3回FD/SD研修」が立命館大学びわこ・くさつキャンパスで行われました。研修の状況は本学にもテレビ中継され、両大学合わせて55名、本学からは伊藤誠二副学長ら教職員が出席しました。

この研修は平成21年に採択された「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」(文部科学省)の一環です。この日は、日本学術会議「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会委員長で国際基督教大学教養学部の北原和夫、京都大学医学研究科の川上浩司の両教授を講師に招き、それぞれ「教育の質保障について」「京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻(SPH)における臨床研究者養成のとりくみ」と題

して講演され、この後はパネルディスカッションが行われました。



パネルディスカッションで意見を述べる伊藤副学長(右)

学 事

臨床実習認証式 5学年の臨床実習スタート

新5学年104名の臨床実習生認証式が4月2日(土)9時から附属枚方病院13階講堂において、山下敏夫学長、藺田精昭専門部教務部長、今村洋二附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長、高山康夫香里病院長、楠本健司教授、鈴木健司講師の両クラスアドバイザー、友田幸一教授、安田照美附属枚方病院看護部長の出席のもと開催されました。この認証式は昨年からは実施しており、学生たちは初々しい白衣姿で「臨床実習を通して貪欲に学びたい」と決意を新たにしていました。

冒頭、藺田専門部教務部長が臨床実習生認証式の意義について話した後、山下学長から学生一人ひとりに臨床実習許可証が手渡されました。続いて、山下学長、今村病院長、岩坂病院長から実りのある臨床実習に挑むに当たっての熱い言葉が贈られました。最後は学生

を代表して鳥山紗由子さんが「初心を忘れず、将来の糧となる実習にします」と高らかに宣言しました。



臨床実習に向けて意欲を燃やす学生たち

新入生オリエンテーションを実施



真剣な表情で説明を聞く新入生たち

4月6日(水)から4日間、新入生オリエンテーションが行われ、新入生たちはこれから始まる学生生活に向けての意識を高めました。1、2日目は附属滝井病院南館臨床講堂において、本学のカリキュラムや学生生活に関する説明のほか「社会医学と法医学」「免疫の不思議」「ストレスと病気」「血液の癌と移植療法」「1学年健康管理行事について」「学生相談室の役割」と、それぞれ題した講演と解説がありました。また、附属枚方病院施設見学や本学創立80周年記念のビデオ放映も行われました。3、4日目は教養部学舎において実施され、学生生活全般や教養部学舎、図書館の利用、1学年カリキュラムの説明のほか、クラスアドバイザーの挨拶やセミナー科目オリエンテーションが実施されました。

1学年合宿研修を実施 目標に向けて意気込み新たに

4月14日(木)と15日(金)に一泊二日の1学年合宿研修を兵庫県の淡路島において実施し、1学年学生115名と教職員24名が参加しました。研修のテーマは「目指す医師像と、この1年間の過ごし方」です。1学年学生たちは自然豊かな淡路島で自身の目標について見つめ直したほか、仲間たちとの交流を深めました。

研修はグループ別によるディスカッションやポスターの作成、「本学で過ごす6年間に対する意気込み」を課題にした川柳の作成、大塚国際美術館(徳島県鳴門市)の見学など、盛りだくさんの内容に学生たちは充実した2日間を過ごしました。



山下学長を囲んで記念撮影する1学年学生たち

学 事

平成23年度 教務関係日程表

1学年	
4/5(火)	入学式
4/6(水)・7(木)	新入生オリエンテーション(専門部)
4/8(金)・11(月)	新入生オリエンテーション(教養部)
4/12(火)	前期開講
4/14(木)・15(金)	合宿研修
5/2(月)～6(金)	休講(5月連休)
6/30(木)	休講(創立記念日)
7/15(金)	講義終了
7/19(火)～8/31(水)	夏季休業
9/1(木)	講義再開
9/14(水)	前期終講
9/15(木)～27(火)	前期試験
9/28(水)	後期開講
10/28(金)～30(日)	大学祭
12/21(水)	講義終了
12/22(木)～1/6(金)	冬季休業
1/10(火)	講義再開
1/26(木)	後期終講
2/9(木)～18(土)	後期試験
3/7(水)	卒業式
3/3(土)～9(金)	再試験

2学年	
3/31(木)	2学年ガイダンス
4/4(月)	1学期開講
5/2(月)～6(金)	休講(5月連休)
5/15(日)	解剖体追悼法要
5/25(水)	学生定期健康診断
6/30(木)	休講(創立記念日)
7/4(月)～8(金)	試験期間
7/8(金)	1学期終講
7/11(月)～8/19(金)	夏季休業
8/22(月)	2学期開講
10/28(金)～30(日)	大学祭
12/16(金)	2学期終講
12/19(月)～1/3(火)	冬季休業
1/4(水)	3学期開講
2/13(月)～3/9(金)	試験期間
3/7(水)	卒業式
3/9(金)	3学期終講

3学年	
3/30(水)	新3学年ガイダンス
4/4(月)	1学期開講
5/2(月)～6(金)	休講(5月連休)
5/15(日)	解剖体追悼法要
5/26(木)	学生定期健康診断
6/30(木)	休講(創立記念日)
7/4(月)～15(金)	試験期間
7/15(金)	1学期終講
7/19(火)～8/19(金)	夏季休業
8/22(月)	2学期開講
10/28(金)～30(日)	大学祭
12/16(金)	2学期終講
12/19(月)～1/3(火)	冬季休業
1/4(水)	3学期開講
1/23(月)～2/10(金)	試験期間
2/13(月)～3/9(金)	分属実習
3/7(水)	卒業式
3/9(金)	3学期終講

4学年	
3/29(火)	新4学年ガイダンス
4/4(月)	1学期開講
5/2(月)～6(金)	休講(5月連休)
5/27(金)	学生定期健康診断
6/30(木)	休講(創立記念日)
7/11(月)～15(金)	試験期間
7/15(金)	1学期終講
7/19(火)～8/19(金)	夏季休業
8/22(月)	2学期開講
10/24(月)～27(木)	試験期間
10/28(金)～30(日)	大学祭
12/12(月)～16(金)	試験期間
12/16(金)	2学期終講
12/19(月)～1/3(火)	冬季休業
1/4(水)	3学期開講
2/2(木)・3(金)	CBT共用試験
3/3(土)	OSCE共用試験
3/3(土)	3学期終講
3/7(水)	卒業式

5学年	
4/2(土)	新5学年臨床実習生認証式、ガイダンス
4/4(月)	1学期開講
4/4(月)～2/24(金)	臨床実習
5/2(月)～6(金)	休講(5月連休)
5/26(木)	学生定期健康診断
6/30(木)	休講(創立記念日)
7/22(金)	1学期終講
7/25(月)～8/20(土)	夏季休業
8/22(月)	2学期開講
12/22(木)	2学期終講
12/26(月)～1/3(火)	冬季休業
1/4(水)	3学期開講
2/27(月)	クリニカル・クラークシップ総合試験
2/27(月)	3学期終講
3/7(水)	卒業式

6学年	
4/1(金)	新6学年ガイダンス
4/4(月)	1学期開講
4/4(月)～7/2(土)	臨床実習
5/2(月)～6(金)	休講(5月連休)
5/27(金)	学生定期健康診断
6/30(木)	休講(創立記念日)
7/16(土)	Advanced OSCE
7/16(土)	1学期終講
7/19(火)～8/26(金)	夏季休業
8/29(月)	2学期開講
8/29(月)～11/8(火)	卒業試験
11/9(水)～11(金)	総合試験
11/11(金)	2学期終講
11/14(月)	冬季休業開始(以降自習期間)
3/7(水)	卒業式

注)休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあるので、注意すること。

学 事

学位記授与式と医学会賞贈呈式を開催

3月22日(火)午後3時30分から専門部学舎大会議室において、学位記授与式が開かれ、山下敏夫学長から13名に博士(医学)の学位記が授与されました。また、本学医学会賞贈呈式も開かれ、3月18日(金)の学内学術集談会の応募口演による選考で医学会賞に選ばれた耳鼻咽喉科学講座の濱田聡子助教に山下学長より賞状と記念品が手渡されました。

聴覚治療の応用へ

マウスの中樞聴覚路におけるコリン線維と

受容体の局在に関する研究—

耳鼻咽喉科学講座 濱田 聡子

この度は医学会賞を賜り誠に有難うございました。このような荣誉ある賞を受賞し大変光栄に存じております。今回の受賞に際し大学院時代を振り返りますと、結果が出ずに何度も同じ実験を繰り返し試行錯誤したことや、やっと結果を出すことのできたときの喜びなどが思い出されますが、指導医の先生方の適切な助言や温かい励ましのお陰で実験を継続することが出来たと感謝致しております。

私の研究テーマは、マウスの中樞聴覚路におけるアセチルコリン線維の入力とムスカリン性アセチルコリン受容体の局在に関する研究です。中樞聴覚路においてコリン性の神経伝達は、行動・覚醒や注意力、可塑性、認知機能に重要な役割を果たしていることが報告されていますが、コリン性神経伝達が聴覚上行路で機能している事実を裏付ける基礎的研究データは現在のところ報告されておりません。そこで私は中樞聴覚路諸核でコリン線維とコリン受容体が共に豊富な部位の有無を検出する実験を行いました。抗VAChT抗体を用いて免疫組織化学的にコリン線維の多少を解析し、また大脳皮質や上行性聴覚路を含む脳幹で豊富に発現するムスカ

リン性コリン受容体m2, m3サブタイプの局在をin situ hybridizationで解析しました。

その結果、一次聴覚野、内側膝状態、下丘腕核でm2を、一次聴覚野ではm3を介したコリン性伝達が生じている可能性が示唆されました。さらにm2サブタイプとコリン線維が豊富であった下丘腕核では、隣接する上丘との両方向性の連絡が報告されており、今回の結果より下丘と上丘深層との密接な連絡によって、聴覚の空間認識をコード化するのにm2シグナルが重要な影響を及ぼすことが推測されました。今後ムスカリン受容体サブタイプに特異的な薬物の聴力に対する作用の解析を経て、難聴、耳鳴といった聴覚の治療へ応用される可能性が期待できます。

最後になりましたが、本研究の御指導賜りました山下敏夫学長、杉本哲夫教授、友田幸一教授、また審査いただいた先生方、そして研究に協力して下さった皆様に心より厚く御礼申し上げます。



山下学長はじめ、教員たちと写真に収まる濱田助教(前列左)

学 位 授 与

博士(医学)の学位が次のとおり授与されました。

星野 勝一(課博第882号)平成23年3月22日

「The role of dendritic cell subsets in 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid-induced ileitis」

山原 英樹(課博第883号)平成23年3月22日

「Direct Aldosterone Action as a Profibrotic Factor via ROS-Mediated SGK1 in Peritoneal Fibroblasts」

安室 秀樹(課博第884号)平成23年3月22日

「Statins, Inhibitors of 3-Hydroxy-3-Methylglutaryl-Coenzyme A Reductase, Function as Inhibitors of Cellular and Molecular Components Involved in Type I Interferon Production」

山本 智久(課博第885号)平成23年3月22日

「Circulating myeloid dendritic cells as prognostic factors in patients with pancreatic cancer who have undergone surgical resection」

木村 卓(課博第886号)平成23年3月22日

「CXCL8 enhances the angiogenic activity of umbilical cord blood-derived outgrowth endothelial cells in vitro」

井口 亮輔(課博第887号)平成23年3月22日

「Percutaneous microwave coagulation therapy for hepatocellular carcinoma: Increased coagulation diameter using a new electrode and microwave generator」

楠田 武生(課博第888号)平成23年3月22日

「Involvement of ICOS and IL-10 Positive Regulatory T Cells in the Development of IgG4-related Autoimmune Pancreatitis」

深田 憲将(課博第889号)平成23年3月22日

「The effective therapy of cyclosporine A with drug delivery system in experimental colitis」

大中 誠之(課博第890号)平成23年3月22日

「Induction of arginase II mRNA by nitric oxide using in vitro model of gyrate atrophy of choroid and retina」

岡本 尚史(課博第891号)平成23年3月31日

「Treating Achilles Tendon Rupture in Rats with Bone-Marrow-Cell Transplantation Therapy」

山本 和美(論博第677号)平成23年3月22日

「Psychological characteristics of Japanese patients with chronic pain assessed by the Rorschach test」

奥 賢一(論博第678号)平成23年3月22日

「New Strategies for Anterior Cruciate Ligament Partial Rupture using Bone Marrow Transplantation in Rats」

大宮 美香(論博第679号)平成23年3月22日

「The Absence of Large Ulcer Predicts Latent Cytomegalovirus Infection in Ulcerative Colitis with Positive Mucosal Viral Assay」

病 院

附属枚方病院

附属枚方病院へのアクセスが便利になりました！

附属枚方病院へのアクセスが便利になりました。

新学舎建設計画の一環として病院南側に492台を収容する3層4階建ての立体駐車場を建設し、2月14日(月)



バス停が移設され便利になりました

に運用を開始しました。

また、京阪バスの停留所が3月2日(水)に病院の正面玄関向かって左側に移設され、患者さんが利用しやすくなりました。附属枚方病院からは京阪香里園行きのバスも運行されています(左図参照)。



完成した立体駐車場

イメージキャラクターのオリジナルバッジ完成



オリジナルバッジでチーム一丸！

昨年、公募によって枚方病院のイメージキャラクターに決定した「めぐみちゃん」と「こころくん」のオリジナルバッジを製作しました。一丸となって開院6年目に臨むチーム医療のイメージの象徴として、関係者の皆さんに知っていただき、さらに患者さんに親しみやすいイメージを持ってもらうことが目的で、既に院内のスタッフは着用しています。バッジは円形で、2つのキャラクターが並んでいるデザインです。今後とも「めぐみちゃん」と「こころくん」をよろしく願います。

医療感染対策講演会 チーム医療で感染制御呼び掛け

1月28日(金)午後5時45分から附属枚方病院13階講堂で感染対策講演会が松田公志附属枚方病院副院長の座長により開かれ、105名が参加しました。愛知医科大学大学院医学研究科感染制御学部門の三嶋廣繁教授が講師を務め「Data-based Infection Control～これからの感染制御を考える～」と題して講演されました。

三嶋教授は日々のICT活動の重要性を説き「病院内の各職種の人たちが連携して感染制御に取り組むことが重要」と指摘。その連携を象徴するものとして、薬剤師が患者さんのデータの異変に気づいて新たに感染症が発覚し、環境調査の実施にまで発展したという事例を挙げ「『何かおかしい』と思う感覚を持つ人をそれぞれのセクションで育てなければならない。その疑問

をチームで共有して取り組むことが大切です」と力を込めました。また、感染制御の考え方として「治療」と「予防」の両面から対応することの必要性を説き「アウトブレイクが起きることによる損失は大きく、病院を守るためにも、攻め(治療)と守り(予防)の対応を徹底してほしい」と強調しました。



講演する三嶋教授

病 院

転倒防止予防への意識重要 医療安全講習会を開催

1月27日(木)午後5時20分から、附属枚方病院にて医療安全講習会が開かれました。「転倒の危険性とその予防」をテーマに、本学整形外科非常勤講師である小室元先生(小室整形外科医院院長)による講演が行われました。医師、看護師、事務員ら142名が参加、転倒防止の予防に向け意識を高めていました。

小室先生は大腿骨頸部骨折が急増している現状を受けて「大腿骨頸部骨折を起こした患者さんの2割が、ADL低下などの合併症が原因で1年以内に死亡している」と警鐘を鳴らし、転倒事故の予防の重要性を強調しました。さらに、転倒の発生は身体機能や運動機能の低下を認知せず、車椅子、トイレなどへの移乗動作を行った場合に多いことを指摘し、筋力トレーニングやヒッププロテクターの装着など、傷害(骨折)の防止策の必要性も説いていました。そして、最後は「転倒予防

対策は患者さんへの生命予後に大きく関与する可能性があるという認識を、日ごろから職員が持つことが重要です」と締めくくりました。



転倒防止の予防について講演する小室先生

優雅な四重奏にうっとり ウィンターコンサート



美しい音色に包まれる会場

2月5日(土)午後1時30分から附属枚方病院13階講堂でウィンターコンサートが開催されました。大阪センチュリー交響楽団の永江真由子さん(フルート)、大中和代さん(バイオリン)、清水豊美さん(ビオラ)、高橋宏明さん(チェロ)による四重奏で、患者さんや見舞い客ら160名が来場し、会場は大盛況でした。

このコンサートは、附属枚方病院の看護師ボランティア27名、病院ボランティア12名と医師、看護師、事務員で構成するボランティア委員会が主催し、大阪センチュリー交響楽団の皆様もボランティアで演奏されました。「春の海」や「星に願いを」、日本の歌メドレーなど計10曲が演奏され、出演者が奏でる美しい音色が会場を包み込む中、参加者は手足でリズムを取ったり、目をつむって聴き入ったりするなどしながら、終始、和やかな表情を見せていました。

「子宮頸がんの病態とHPVワクチン予防」テーマの講演会

「子宮頸がんの病態とHPVワクチン予防」をテーマにした講演会が2月9日(水)午後5時30分から附属枚方病院13階講堂で開かれ、職員ら169名が参加しました。今村洋二病院長が司会を務め、本学産科学婦人科学講座の齊藤淳子講師の講演が行われました。

20年以上HPVについて研究している齊藤講師は、子宮頸がんの診断、症状、治療法などについて解説した後、日本の検診受診率が著しく低い現状を指摘、「先進国の受診率が70%前後の中、日本は50%にもほど遠い」と警鐘を鳴らしました。

また、子宮頸がん患者が抱える後遺症や精神的な苦痛に関することも取り上げ「子宮頸がんの発症、治療は大きな精神的、身体的苦痛に見舞われます。しかし、自分の努力で予防が可能です」と強調しました。さらに、保護者、そして小学生や中学生低学年へのHPVワクチンの説明の重要性も強調し「自分の体と赤ちゃん

を守るための接種です。そのためにもワクチンと検診が大事です。20歳以上の方は全員検診を受け、20~30代の方は必ずワクチンを接種してください」と締めくくりました。講演終了後の総評では、今村病院長が「今は子宮頸がんを予防できる時代ですので、定期的に検診を受けてください」と呼び掛けていました。



講演する齊藤講師

病 院

平成22年度 院内ボランティアの表彰式

3月9日(水)午後1時から、附属枚方病院にて平成22年度のボランティア表彰式が行われ、今村洋二病院長から累計500時間以上の活動をされた4名の方に感謝状が手渡されました。平成20年2月にスタートしたボランティア活動も4年目を迎えますが、現在56名が登録され、入院案内や移動図書、車椅子の整備などの活動も充実してきました。



今村病院長を囲んで写真に収まるボランティアの方々とボランティア委員の皆さん

北河内がん地域連携パス合同説明会開催

4月16日(土)午後2時から、門真市民文化会館にて「北河内がん地域連携パス合同説明会」が開催されました。地域連携パスとは、標準的診療を、病院・診療所・在宅医療・介護などの様々な医療機関・スタッフが機能分担・連携をして行う一連の地域診療計画工程表とのことです。

今回、北河内7市6医師会から、地域の先生方へ説明会をしてほしいとの要望を受け、国のがん診療連携拠点病院である「関西医科大学附属枚方病院」の今村洋二病院長と、大阪府がん診療拠点病院である「星ヶ丘厚生年金病院」の杉本壽病院長・「松下記念病院」の山根哲郎病院長が発起人となり、この合同説明会が実現しました。

各医師会等から157名の参加を得て、司会は権雅憲附属枚方病院副病院長・外科主任教授・地域医療連携部長が務め、辰巳満俊星ヶ丘厚生年金病院長補佐・外科主任部長、森崎堅太郎守口市医師会長、笹井康典大阪

府枚方保健所長からの挨拶の後、東山聖彦府立成人病センター診療局長兼外科部長から特別講演が行われました。続いて、各がんの地域連携パスについて各担当医師から説明があり、活発な質疑応答が行われました。

最後に、今回の説明会を機に、北河内におけるがん診療の更なる充実が図られ、患者さんが症状の経過に応じて、適正な医療機関で医療が受けられるよう連携を強化していくことを確認し、小山田裕一松下記念病院副院長・医療連携センター長の挨拶で閉会となりました。



ご講演される東山先生

外務省巡回医師団に参加して

1月8日(土)から23日(日)までの16日間、外務省巡回医師団に公衆衛生学の西山利正教授と三島伸介助教とともに参加しました。巡回先はアフリカのアンゴラ、ジンバブエ、マダガスカル、ベナンの4ヶ国です。この巡回医師団の目的は、医療事情が悪く健康生活の維持に苦勞している地域に医師団を派遣し、その国にいる日本人の健康相談に応じること、現地の医療機関の視察やスタッフと意見交換し、医療状況を把握することの2点です。

各大使館の一室が診察室となり、私は身長・体重、血圧測定、簡単な問診のほか、西山教授、三島助教の診察に誘導し、介助を行いました。発展途上国での問題はやはりワクチン接種のことですが、ご専門であるお二人の先生の的確なアドバイスにより、安心されていました。しかし、慣れない国でのストレスから不眠気味であったり、食生活が偏りがちであるためか高血圧や肥満気味である方も多く、気になるところでした。家族と一緒に赴任されている方は、現地の食事が子供の口に合わず偏食になって困っていることや、成長・発達に問題はないか、といった相談もありました。身

附属枚方病院 看護部 櫻井 知賀

近に相談できる専門職がないため、直接相談が出来て、「心配ないですよ」と言われると、とても安心されている様子から今回の医師団の事業が有意義なものであると痛感しました。

直接アフリカの方と接する機会は少なかったのですが、現地ではわが子と同じくらいの子供が学校に行かず、わずかなお金を稼ぐために靴磨きをしていたり、病院に来られるのは一部の富裕層だけで、多くの人は事故や重病になっても路上で亡くなるのを待つだけということを知りました。豊かな自然に恵まれながらも一部の人に富が集中し、インフラも十分でなく子供が物乞いをせざるを得ないようなアフリカの国々に、少しずつでも平和や平等が訪れることを願っています。



外務省巡回医師団に参加し、現地で活動する櫻井看護師(左)と西山教授(右)

附属滝井病院

生活習慣について市民が学習 市民公開講座を開催

平成22年度第13回市民公開講座が2月5日（土）午後2時から午後4時30分まで守口文化センターエナジーホールで開催され、251名が聴講しました。小児科の谷内昇一郎准教授が「食べて治す食物アレルギー」、循環器腎内分泌代謝内科の大谷肇准教授が「肥満と運動療法」、看護部の大久保縁糖尿病認定看護師が「食事と生活習慣病」とそれぞれ題して講演し、参加した市民らは日ごろの食生活や運動に対する意識を高めていました。

市民公開講座の様子



肝臓病教室開催 B型慢性肝炎治療などわかりやすく解説

肝臓について正しく知ってもらうことを目的とした「第10回肝臓病教室」が2月5日（土）午前10時30分から附属滝井病院本館6階講堂で開かれ、21名の市民が来場しました。消化器内科の坂口雄沢助教、薬剤部の奥山悦子薬剤師、さらに医療ソーシャルワーカーの蔭山恵子さんと田村佳奈さんがそれぞれ治療、薬、費用の各観点からわかりやすく講演しました。



B型肝炎の最新治療について話す坂口助教

坂口助教は「B型肝炎の最新治療」をテーマに、肝炎

の概要や発症原因、予防などについて説明した後「B型肝炎ウイルスを体内から排除することはほぼ不可能。他人の血液に触れないなどウイルスに対する予防が大切です」と強調しました。奥山薬剤師は「薬を有効にいかすためには」と題して講演し、インターフェロン療法などで服用する薬の概要や注意点について解説しました。さらに、蔭山さんと田村さんは「知っておきたい治療費のこと—インターフェロン治療及び核酸アナログ製剤治療に対する医療費助成—」の演題で、助成制度や医療ソーシャルワーカーについて紹介しました。

休憩時間には梶原美絵看護師と細見恭子管理栄養士の指導によるストレッチ体操が行われ、参加者はリラックスした様子。最後は参加者から薬の費用面や服用に関すること、検査についての質問がありました。

休憩時間には梶原美絵看護師と細見恭子管理栄養士の指導によるストレッチ体操が行われ、参加者はリラックスした様子。最後は参加者から薬の費用面や服用に関すること、検査についての質問がありました。

医薬品安全使用のための研修会

2月10日（木）午後5時30分から、附属滝井病院南館2階臨床講堂で「医薬品安全使用のための研修会」が開かれ、50名の教職員が参加しました。この研修会は医療法に規定されている「医療の安全の確保」の一環として実施されました。

研修会では日本新薬株式会社学術部の堀内順平氏が「グリコラン錠（経口糖尿病用剤）の特徴と使用上の注意—特にヨード造影剤使用時の注意点について—」、附属滝井病院の富田浩薬剤部長が「内服薬の処方せん記載上の問題点」をそれぞれテーマにした講演を行い、参加者は熱心に耳を傾けていました。



堀内氏の講演に耳を傾ける参加者

がん患者の創傷ケア講演開催

3月1日（火）午後5時30分から、専門部学舎第1講堂において「がん患者の創傷ケア」をテーマにした講演会が開かれました。「がん終末期に発生する創傷（褥瘡）・スキンケア」「皮膚浸潤した際の局所ケア」「手足症候群へのケア」などについて、ET/WOCN（皮膚・排泄ケア認定看護師）の宮崎啓子氏が講演しました。

放射線作業従事登録者に対する教育及び訓練実施

2月5日（土）午後1時30分から附属滝井病院南館2階臨床講堂において、放射線作業従事登録者に対する教育及び訓練が実施されました。「放射線の性質と単位」「放射線の人体に対する影響」「放射線の測定」「放射線関連の法令」についてのDVD講習が行われました。

病 院

香 里 病 院

香里病院周辺が一新 香里園駅東口再開発「かほりまち」が盛大にオープン

京阪電鉄香里園駅東口の駅前再開発で新たに誕生した「香里園かほりまち」のオープニングセレモニーが3月1日(火)午前11時から開催され、香里病院の高山康夫病院長がバスターミナル近くの広場に設置されたモニメントの序幕式に出席しました。

これにより、香里病院の周辺はきれいに様変わりし、



除幕式に出席した高山香里病院長（左から5人目）

37階建超高層タワーマンションが完成したほか、店舗棟(かほりまちテラス)が翌2日(水)から営業を開始しました。また、香里園駅からは附属枚方病院への直通バスが運行されており、これまでより近い場所に新しいバスターミナルが整備されるなど、香里病院周辺は一層便利な街並みへと変身しています。



整備された新しいバスターミナル

予防と検診の重要性強調 「21世紀は予防の時代」市民公開講座開催

4月16日(土)午後2時から寝屋川市のアルカスホールで「21世紀は予防の時代」をテーマにした市民公開講座が開かれ、90名が参加しました。座長は埴本慎香里病院眼科講師・市民公開講座委員長を務めました。

冒頭の高山康夫香里病院長の挨拶の後、荻野廣太郎小児科准教授、寺西二郎婦人科講師、吉田秀行乳腺外科助教がそれぞれ講演しました。

荻野准教授は「こどもの予防接種最前線～新しく始まった予防接種を中心に～」と題し、小児用ワクチンの概要や予防接種について説明。寺西講師は「婦人科の予防接種最前線～子宮頸がんと子宮頸がんワクチンについて～」の題目で講演し、増加傾向にある子宮頸がんの予防に向けてワクチン接種が重要であることを呼び掛けました。吉田助教は「乳がんの早期発見と予防にはマンモグラフィ検診を！」をテーマに話し、国内の乳がん検診受診率の低さに警鐘を鳴らし、検診の重要性を説きました。



座長を務めた埴本市民公開講座委員長

地域との連携より強力に 寝屋川市医師会との懇談会開催

寝屋川市医師会と香里病院との懇談会が1月29日(土)午後4時から、守口ロイヤルパインズホテルで開催され、寝屋川市医師会から45名と香里病院から34名が出席しました。

懇談会は高山康夫香里病院長と早川貫治寝屋川市医師会長の挨拶の後に開かれた学術講演会では、香里病院の高橋延行地域医療連携部長が座長を務め、吉岡和彦外科准教授が「排便機能障害と新肛門造設術」、兒島新整形外科講師が「整形外科と手の外科診療」と、それぞれ題して講演しました。続いて、香里病院の地域医療連携の現況や登録医制度、各診療科の診療体制についての説明が行われ、学術講演会の後には懇親会が開かれました。



地域医療連携の現況などについて意見交換する出席者の方々

卒後臨床研修センター

女子医学生にライフワーク助言 女子医学生・研修医等をサポートするための会

「平成22年度女子医学生・研修医等をサポートするための会」が2月19日(土)午後2時から附属枚方病院で開催されました。本学、大阪医科大学、大阪府医師会の主催、日本医師会の共催で実施され、本学と大阪医科大学が連携して行う「大学教育充実のための戦略的・大学連携支援事業」(平成21年度文部科学省採択)の「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム」の中の女性医師支援事業に関連した事業との位置づけで、附属枚方病院の今村洋二病院長が大阪医科大学に働きかけて実現しました。



先輩医師の講演に耳を傾ける学生たち

この会は多様な女性医師のライフスタイルの紹介などを通じて、女子医学生に将来の就業の継続を意識してもらうことが目的で、学生32名をはじめ、医師ら計42名が参加しました。テーマは「医師の生きがい、女の誇り—女として、妻として、母として、医師として、そして人間としてどう生きてきたか、これからどう生きていくべきか—」で、座長は本学臨床検査医学の植村芳子教授が務め、4名の女性医師の講演と懇談会が開かれました。

冒頭の今村病院長による「何のために、そしてなぜ医師を目指すのかを、先輩の生き様から学んでほしい」との挨拶の後、講演がスタート。杏林大学麻醉科学の萬知子教授は「自分の置かれた環境でベストを尽くすこと」という自身の行動指針について紹介し、「限られ

た時間の中でプロフェッショナルな仕事をするのが大事です」と強調しました。大阪府医師会理事で大阪市立大学大学院医学研究科病理病態学の上田真喜子教授は、女子医学生が増えているにもかかわらず、女医が働くシステムが整備されていない国内の現状を危惧し、さらに子育てと両立しながらキャリアを形成するために「子育てが大変な時は仕事のペースを下げるなど、生活に、優先順位をつけることが重要です」とアドバイスを送りました。

附属枚方病院泌尿器科の滝澤奈恵助教は、主に自身の出産後について話し、本学の「短時間労働正職員制度」を利用して産後6ヵ月から職場復帰したことについてふれ「その時しかできないこともあるので、長い目で見たワークライフバランスを大切にしてください」とエールを送りました。大阪医科大学公衆衛生学の谷本芳美講師は「出生率が高いほど女性が働く率が高い」という先進国のデータを紹介し「自分が選んだライフスタイルに合わせて勤務できる環境を選んでください」と激励しました。最後は植村教授が「素晴らしい先輩方が歩んだ人生と心強いお言葉が学生の励みになると思います」と締めくくりました。

講演の後の懇談会では用意されたスイーツを口にしなが、女子医学生たちが先輩医師たちとの交流を深めていました。



先輩医師たちと交流を深める懇談会の様子

附属3病院看護部の合同研修を開催



招きして研修を実施しました。対象は今後、新人看護

卒後臨床研修センター看護実践支援部門では、2月12日(土)に教育・研修コンサルタント「ダブルアイズ」代表の岩井美詠子先生をお招きして研修を実施しました。対象は今後、新人看護

職員の教育を担う教育担当者と、学生指導を担う臨地実習指導者で、活気溢れる研修となり、聞き方、話し方、引き出し方といったコミュニケーションスキル(医療現場における対人関係の構築)について、事例を交えた参加型の講義が展開され、出席者は楽しく学んでいました。

後輩や看護学生のやる気を引き出し、また、指導者の教える喜びを感じることができるコミュニケーションスキルを磨くことが大切です。今後、各職場で実践活用し、研修の成果が発揮されることを期待します。

卒後臨床研修センター

臨床研修修了式の様子



臨床研修修了式を挙行

平成21年度採用研修医の臨床研修修了式が3月25日(金)午後4時から、附属枚方病院13階講堂で挙行されました。附属枚方病院及び附属滝井病院の各プログラムを修了した計28名が2年間の臨床研修修了を認証され、今村洋二附属枚方病院長と岩坂壽二附属滝井病院長から修了証書が授与されました。

23年度 研修医が新たな一歩

平成23年度採用臨床研修医のオリエンテーションが4月1日(金)から11日(月)まで実施され、41名が2年間の研修医生活のスタートを切りました。期間中はカルテの書き方や縫合手技などの演習や臨床研修に当たっての講義のほか、期間中に実施された一泊二日のワークショップでは「患者サービス」「チーム医療」「医療人としてのコミュニケーション」「医の倫理」などをテーマにしたレクチャーを受けたほか、グループ作業の成果発表を行いました。



ワークショップでグループ作業する研修医たち

平成24年度 臨床研修合同説明会を開催

冒頭に挨拶する澤田副学長



平成24年度に附属枚方病院と附属滝井病院で採用する臨床研修の合同説明会と情報交換会が4月16日(土)午後4時からリーガロイヤルホテル大阪で開かれ、本学学生64名と学外生20名の計84名が参加し、教職員ら53名がスタッフとして出席しました。研修内容の説明のほか、研修の体験談が紹介され、学生たちは真剣な表情で聞き入っていました。説明会は冒頭、澤田敏副学長が本学について概要説明した後「本日の説明会を皆さんの将来の研修に役立てていただきたい」と激励し、続いて岡崎和一附属枚方病院副病院長、岩坂壽二附属滝井病院長、高山康夫香里病院長がそれぞれ挨拶しました。さらに、木下利彦卒後臨床研修センター長が初期研修内容や修了後の本学でのキャリアパスなどについて解説し、さらに唐川正洋大阪府済生会泉尾病院長が同病院の初期臨床研修について紹介しました。この後、初期研修医2名と後期研修医2名が本学での研修に関する体験談について話しました。第2部の情報交換会は立食パーティー形式で行われ、今村洋二附属枚方病院長と権雅憲附属枚方病院副病院長も加わり、参加者は教員や先輩研修医に質問するなど、交流を深めていました。



教員と交流を深める学生たち

平成24年度臨床研修医採用試験日程等のお知らせ

応募開始日：平成23年4月18日(月)
 応募締切日：平成23年7月8日(金)
 筆記試験日：平成23年7月25日(月) 午後2時
 面接試験日：平成23年7月29日(金) 午後2時
 採用人数：
 附属枚方病院研修プログラム 40名
 附属枚方病院小児科研修プログラム 2名
 附属枚方病院産婦人科研修プログラム 2名
 附属滝井病院研修プログラム 9名
 (採用人数は厚生労働省の指針等により変更することがあります)

◎申し込み・問い合わせ先：
 関西医科大学附属枚方病院卒後臨床研修センター
 〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1
 TEL 072-804-0101(内線3800,3801)・072-804-2847(直通)
 FAX 072-804-2952
 E-mail : sotugori@hirakata.kmu.ac.jp
 HomePage : <http://www.kmu.ac.jp/residency/>
 ◎プログラム番号
 附属枚方病院プログラム番号(050006401)
 附属枚方病院小児科重点プログラム番号(050006402)
 附属枚方病院産婦人科重点プログラム番号(050006403)
 附属滝井病院プログラム番号(030507401)

入学式挙行

立派な看護師めざし83名入学

本学附属看護専門学校の第32期生入学式が4月6日(水)午前10時から同校において挙行されました。山下敏夫理事長・学長、關壽人附属看護専門学校長、今村洋二附属枚方病院長はじめ来賓、教職員のほか、保護者約100名が出席しました。式典では關学校長の式辞の後、来賓祝辞では山下理事長・学長から「勇気と努力を持って立ち向かえば必ず目標を達成できます」、安田照美附属枚方病院看護部長から「患者さんの気持ちを理解できる豊かな感性を磨いてください」と、それぞれ激励がありました。さらに、新入生を代表して成富千夏さんが宣誓し、西村舞さんが「今日の感動と決意を忘れずに立派な看護師をめざします」と挨拶し、在学生を代表して2年生の市野智香さんが「つらいこともあります、一緒に乗り越えましょう」と歓迎の言葉を贈りました。

〔学校長式辞〕

本日は入学おめでとうございます。関西医科大学附属看護専門学校の教職員を代表して心から歓迎の意を表します。また、皆さんの勉学を今日まで支援し、励ましてこられたご両親をはじめ、ご家族や保護者の皆様方にも心からお祝いを申し上げます。ご来賓の皆様方には、本日はまことに忙しいところ、新入生のためにご臨席を賜り、衷心よりお礼申し上げる次第です。

学校長として、式辞を述べる前に、東北・関東の太平洋岸に発生した大地震にて、被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々に哀悼の意を表したいと思えます。また、現在被災地の医療機関ならびに避難所にて医療関係者が献身的な活動を続けているとの報道に接し深い感銘を受けております。心より彼らにエールを送りたいと思えます。復興までには長い道のりですが、被災者の皆様には、挫けず、将来を見据えて是非頑張っていたいただきたいと思えます。

さて、新入生の皆さん、関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学であります。その附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設された、歴史ある看護専門学校です。

本年は女子76名、男子7名、計83名を本学に迎えました。新入生の皆さんは、本日からこの伝統ある関西医



式辞を述べる關校長

科大学の看護学生として、誇りと責任を持って是非、充実した学生生活を過ごしていただきたいと思えます。看護の道を志した皆さんの当面の目標は、本校を無事卒業し、看護師国家試験に合格することです。皆さんの将来を託された立場にある教職員は全力で皆さんを精一杯支えますが、この3年間は時間的にかなりハードな学生生活が要求されます。是非皆さんも先生方やご家族の期待に応えられるよう日々勉学に励んで下さい。

皆さんはこれから、人のよりよい生、いのちに関わっていくための知識や技術を看護学として学びます。講義の中で看護に関するいろんな概念やデータ、そしてそれらを用いての思考過程を学び、結論を導く訓練を受けます。さらに座学で得た知識を基礎にして、体験し覚える臨地実習があります。この時点で、理解すること、自らが出来ること、頭で分かっていること、行動できることは、違うと言うことを自覚するはずで、そして自覚することで、自分自身の課題が明らかになりますが、その課題を克服しなければ卒業はできません。

看護師になるための教育はある意味かなり特殊な教育と言えます。それは人命を扱う看護のための職業教育だからです。皆さんが明日から受ける教育はすべて必須です。一般の高校や大学のように選択科目は一切ありません。人命に関わる教育に選択科目などはなく、常に人の命、生命を対象とした教育です。ときにはハードな勉



立派な看護師になりたいと決意を新たにする新入生たち

強で、行き詰まることもあるかもしれませんが。そのような時には躊躇せず担任の先生に相談して下さい。

職業教育の学習過程で大事なことは、常に自分の志を忘れないことです。自身がなぜ看護師を目指しているのか。なぜ看護師になろうと思ったかです。志に迷いが生じるとなかなか思いを遂げることはできません。事実、毎年進路変更にて本学を去っていく学生さんがいます。皆さんには、是非そのようなことにならないよう、看護師となる、確固たる信念を卒業まで持ち続けて下さい。志あれば道はひらけます。未来への扉を自身の力で是非開いて下さい。

皆さんが目指す看護師資格は国家資格であり、業務独占資格と云われる資格です。業務独占資格とは、その資格を取得していないと業務を行うことが禁止されている資格のことを言います。無資格者が業務独占資格の業務を行うと、違法行為となり罰せられます。皆さんもよくご存じの事と思います。業務独占資格である看護師は看護師の名称も独占します。つまり社会の中で、仕事を独占することは、就労については保障されます。しかし、忘れがちなことは、仕事を独占することによる社会に対する責任の重さです。看護師として

の仕事ぶりが厳しく社会から評価されることを忘れないでください。看護師はプロフェッショナルであり結果が求められる職業なのです。

看護師のタマゴである皆さんには、これからの看護専門学校での生活において、同じく責任ある態度、行動を期待しています。さらに指導を受ける先生方に対し、是非成長する姿を見せて下さい。先生方のモチベーションもさらに向上します。

最後に、皆さんは3年生時には枚方の牧野の地での勉学となる予定です。学習する環境は若干変わりますが、皆さんが戸惑うことのないよう、現在も準備が進められていますので安心して下さい。

私は1995年(16年前)の阪神淡路大震災を経験しましたが、さらに今回の被害を目の当たりにした時、あらためて私自身の生き様を考えるきっかけとなりました。生きている限りは、一医療人として悔いを残さない人生を送りたいと改めて思っているところです。皆さんも悔いのない人生を送るために、今日からの3年間、充実した学生生活を送っていただけることを祈念してやみません。そして3年後の春には、同じ医療人として働けることを願い、学校長の式辞といたします。

平成23年度新入生 (看護学科・第32期生)

1年A組 42名

1年B組 41名

看護師国家試験 合格率 100% !

3月25日(金)に第100回(平成22年度)看護師国家試験の合格発表があり、本校は受験者83名全員が合格しました

なお、全国の合格率は91.8%でした。



東日本大震災支援

被災した方々を全力で支援

東日本大震災



被災地からヘリで搬送される患者



仮設ベッドで処置にあたる本学の災害医療チーム

本学の災害医療チームが被災地で3度の医療救護活動を実施

東日本大震災に際し、本学では附属枚方病院と附属滝井病院の教職員が計3度、被災地で活動しました。第1次チーム5名は震災翌日の3月12日(土)～15日(火)に岩手県花巻市で、3月17日(木)～22日(火)に活動した第2次チーム8名と、3月23日(水)～27日(日)に活動した第3次チーム4名はいずれも同県釜石市に入り、被災地で医療救護活動を行いました。現地から戻ったメンバー



〈第1次メンバー〉 富野敦稔医師、臼井宏宜看護師、徳山博美看護師、渡部幸広事務部長補佐(以上、附属枚方病院) 泉野浩生医師(附属滝井病院)

3月11日(金)午後2時46分に発生した「東日本大震災」は想像を絶する規模で、大きな被害をもたらしました。本学では震災直後から全力で支援に努めています。その取り組みの一部を紹介します。

附属枚方病院でがん患者受入れ

附属枚方病院は3月17日(木)に、東日本大震災による断水や電力不足などの被害を受けた福島県郡山市の南東北がん陽子線治療センターでがんの放射線治療中だった20～70代の患者さん7人を受け入れました。

教職員、患者の皆さんから被災地へ義援金

3月15日(火)から25日(金)までに義援金を募り、職員や本学関係者、患者の皆さんから総額6,147,673円が集まり、第一次として3月29日(火)に日本赤十字社へ送金しました。引き続き義援金を募り、4月30日(土)までに寄せられた義援金は1,484,094円に上ります。この第二次義援金は5月9日(月)に同じく日本赤十字社へ送金しました。本学では、医療従事者の被災地派遣や救援物資の提供、義援金募集など、引続き被災者のみなさんを支援していきます。

は、山下敏夫理事長・学長に活動について報告し、理事長・学長から労いの言葉が贈られました。



〈第2次メンバー〉 高橋弘毅医師、中嶋麻里医師、伊東亜樹子看護師、徳永真澄看護師(以上、附属枚方病院) 前田裕仁医師、藤田享子看護師、田中登紀子看護師、木村光夫事務部長(以上、附属滝井病院)

〈第3次メンバー〉 富野敦稔医師、岩村拓医師、中浦唯看護師、富田ナナ看護師(以上、附属枚方病院)

東日本大震災支援

寄稿



東日本大震災での本学DMATの活動

附属枚方病院 事務部
部長補佐 渡部 幸広

初めに、今回の東日本大震災でお亡くなりになられた多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

3月11日(金)午後2時46分に発生した東日本大震災に伴い、日本DMAT事務局からの要請を受け、枚方病院から救急医学科の富野医師、4N病棟の徳山看護師、臼井看護師、調整員として事務から渡部の4名に滝井病院救急医学科の泉野医師を加えた5名のチームが現地で医療活動を行いました。

あらためてDMATについて、少しご紹介いたします。今回の災害でマスコミにも多く取り上げられましたが、阪神淡路大震災以降、厚生労働省により養成・組織され、平成17年4月に発足しました。大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持った専門的な訓練を受けた医療チームです。災害派遣医療チームDisaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって略してDMAT(ディーマット)と呼ばれています。現在、全国で災害拠点病院を中心とした医療機関に所属する約800のチームが登録されています。災害時の出動要請については、即応性が求められることから、電話や文書による要請ではなく、予め登録されている各隊員の携帯メールに要請が入ります。各チームは日常的に必要な資器材を整備のうえ、所属する施設長の了解のもと、活動を行うことが原則となっております。

発生直後から、各隊員にはメールにより待機命令

が下され、12日(土)の未明には伊丹空港に参集するよう要請がありました。

関西医大チームも枚方、滝井両病院長に予め了解を取り、DMAT事務局から刻々と入るメールにより出動準備を行いました。最終的に深夜に出動を決定し、3月12日(土)早朝に伊丹空港に集結しました。伊丹空港でしばらく待機の後、いわて花巻空港への派遣が決まり、その日の午後に自衛隊輸送機に乗り、花巻に到着しました。

花巻空港については、主に西日本のDMATチームが集結しましたが、内陸部にあり、比較的被害も少なかったため、広域患者搬送の中継基地となるSCU(Staging Care Unit)が設置されました。空港の格納庫内に多数の簡易ベッドを設置した治療施設が展開され、甚大な被害のあった沿岸部から、ヘリで運ばれてくる患者をトリアージのうえ、容態の安定処置を行い、受入可能な医療施設への搬送が行われました。また重症患者については、さらに自衛隊機に医療スタッフが付き添い、羽田や千歳への広域搬送も行われました。

今回は未曾有の災害で、現地での情報も錯綜しており、被災地ではまだ医療ニーズが必要な時期でしたが、DMATの活動方針である急性期を担う目的から、3日目にはDMAT事務局から撤退命令が下され、活動を終え、3月15日(火)に帰還いたしました。

その後、3月17日(木)～22日(火)まで枚方病院と滝井病院の混成による第2次医療チームが陸路で岩手入りし、被害が甚大であった釜石地区での医療活動が行われました。さらに枚方病院からは第3次のチームが3月23日(水)～27日(日)まで、同じ釜石地区の避難所での医療活動を行いました。

大学情報センター

パソコン講習会でスキルアップ 業務に活かそう!

大学情報センター学術部では、学生及び教職員を対象に、毎年、定期的に講習会を実施しています。今回、滝井地区では、OfficeのVersionが最新の2010になり、画像処理もPhotoshop Elementsになります。枚方地区では、Excelにゆくり時間を掛けて講習を行います。無料で受講できるこの機会を活かしてスキルアップしませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

●滝井地区

Office2010(Windows 7パソコン)を中心とした講習会

●枚方地区

Office2003(Windows XPパソコン)を中心とした講習会

講習会の日程、内容、申し込み状況については、「<http://www.tnoc.kmu.ac.jp/>」にアクセスして「教育・研修」の「パソコン講習会」をご覧ください。

平成23年度前期・パソコン講習会(枚方地区)

講習内容	開催日	曜日・時間	場所
Windows基本操作(1回)	※既に終了しています。		
Word 2003(6回)	5月17日～6月23日	火・木曜日 午後5時30分～7時40分 (休日による振替あり)	情報ライブラリー室 枚方病院1階
Excel 2003(10回)	6月27日～9月1日		
PowerPoint 2003(4回) (ポスター作成を含む)	9月6日～10月6日		

平成23年度・学外講師によるパソコン講習会(滝井地区)

講習内容	開催日	曜日・時間	場所
Windows基本操作(1回)	※既に終了しています。		
Word 2010(4回)	5月18日～6月10日	水・金曜日 午後6時～8時30分	医学情報処理室 大学1号館 附属図書館内4階
PowerPoint 2010(4回)	6月15日～7月8日		
Excel 2010(6回)	7月13日～8月19日		
Photoshop Elements 9(4回)	8月24日～9月16日		
Acrobat 9(1回)	9月28日～9月30日		
セキュリティ(1回)	10月5日～10月7日		

同窓会

関西医大同窓会設立80周年へ向けて、100年への道を開く



関西医科大学同窓会 副会長

四方 伸明

国試時事緊急アピール

本学1回生からの檄。同窓後輩への督励
枚方新学舎完成の平成25年に、我が
関西医大同窓会は発足80周年を迎える。
発足は大阪女子高等医学専門学校1回生

が卒業した昭和8年「1933年」である。この時1回生に課せられたのが文部省指定試験であった。この学校資格審査に優秀合格すれば以降2回生からは本学の教育と卒業生の実力を認め無試験で医師免許を与えるという重要な試験である。

一方この様な話も伝わる。「当時未だ貧弱な施設ゆえ、文部省の目は厳しく成績不良ならば医師教育不適格廃校の怖れがあり、重い責任を感じ、寄宿舎でお互い眠る者を起こし合い必死で励まし合い、指定試験で平均80点を超え、他の男子校を凌ぎ試験官も驚く好成绩で突破した」。13回生村上康子姉が1回生の総代格であった故堀あさ先輩から伺われた話である。これは、当時同時期に日本の各地に新設され指定試験を受けた他の私立医専の成績を凌駕したことを指すのであろう。

私立医大の中でも最下位近くになった今年の成績不振の医師国家試験結果が学内外関係者、学生、教員、職員の元気を失わせているが、自らの資格のためのみならず母校の存亡を懸け後輩のために闘った誇り高さ1回生の勉学奮励の姿を紹介し、1回生から見て子、孫世代の同窓生、そして曾孫世代の学生への励ましとしたい。この1回生が初代校長和辻春次の薫陶を受け、和辻校長提唱の校是として心に抱いて本学出身の医師として臨んだ言葉が「為良」である。

為良と母性と品、感、財

本学の前身、私立大阪女子高等医学専門学校を創設した濱地藤太郎氏の設立の心が恩師和辻春次への報恩と亡き母への孝行敬慕にあり、その具現化が社会的意義のある西日本初の女性医師育成の道を開く事であったという。母の存在を無くしてこの世に生を受ける者はおらず、また、その自らの産みの母を選択することが出来ない様に本学学生は卒業と同時に全国でも数少ない女子医専機関から発展した医科大学の同窓生となる。この様な動かせない歴史がどのように在校生や同窓生に流れているか、或いは誇りを以って伝えていくかは我々先輩同窓生の役割であろう。

私は、本学の歴史的特色は創設の動機となった母性への敬慕でありそれを支える3要素に品性、感性、財政が必要と考えている。創始者濱地氏の母性への志の結晶とも言える大阪女子医専は、当時の最優秀の女学生の入学を得て、2回生宮前澄子姉が学歌「のぞみ」の作詞に示される様に医師としての感性と知性では申し分がなかった。そして、和辻校長の品性ある導きが加わり、産声をあげたばかりとも言っても本学成長の前途は開けたかに見えたが、濱地氏ががつまづいたのが財政であった。

昭和3年創立の大阪女子医専は世界大恐慌の荒波に濱地

氏は学校建築の資金繰りがつかず翌4年退陣。5年には和辻校長も退任された。残念なことに濱地氏の志であった恩師と母への報恩敬慕を動機として西日本に女性医師育成の道を開くべく本学は産まれたものの、財政悪化の前に同氏の手では育て得なかった。この間の已むに已まれぬ事情は、「貧すれば鈍す」「恩讐を越えて」といった題で別の機会に紹介しようと思う。その後、本学は後を引き継いだ方々と学生父兄の努力支援で存続し、大戦後の大阪女子医科大学を経て昭和29年男女共学の関西医科大学となった。

本学の前身と女性同窓生医師の道

同窓会役員として卒業式と入学式に出席すると女子新入同窓会員と女子新入生の多さに驚く。40年前は1、2割であったが、今は3、4割である。品性と感性にあふれた医師になった彼女らが、国民の負託に応じて十二分に働いているのか、働いているのか、宮前姉作詞の学歌「のぞみ」の様に、交野の原を巣立った彼女らが気高さ希望(のぞみ)うち抱き医(くすし)の道に永久(とわ)に妙なる花と咲いているのか、創設の歴史と前身故に本学同窓会は見守るだけでなく医師不足対策として定員を増やした母校とともに多数の女性医師が如何に活躍する道を開くか先達としての行動を求められていると思う。

[財加多乃会]新たな法人化への道

初代同窓会長1回生故川那部喜美子姉が創設されたのが、本紙前号、前々号で採り上げられた公益財団法人加多乃会であり、浄財を募って加多乃会館を所有し住民の健康増進福祉事業や研究助成とともに母校の支援や同窓会の事業を行おうという法人である。入学直後、財政難から廃校の危機に直面した1回生の同姉が「先立つもの」による母校支援の重要性に鑑みシステムを構築されたのは自然な発想とはいえ実現されたことは本当に尊敬する。同窓生もこれに良く応え寄金を行って来たが、法律の改正により、公益財団法人から一般財団法人への衣替えを余儀なくされた。公益法人として集めた基金は公益性のあるものに活用しないと没収される恐れがあるため、研究助成事業基金以外の残資金3億円を学校法人である母校関西医大の新学舎寄金に支出協力し新学舎最上階に同窓会加多乃会スペースを永久確保する。同窓会も2億円の学債を受け持つ予定である。

歴史資料室

1回生のことも、創始者濱地藤太郎氏のこと、宮前澄子氏のこと、全て田代裕元本学学長と熊澤忠躬名誉教授(耳鼻咽喉科学)の詳細精緻な「関西医科大学・大阪女子高等医学専門学校の創設の歴史研究」から学ばせて頂いたことである。田代元学長は、①新学舎内での本学歴史資料室の設置、②同窓生の視点による80年の記録、③教養部学生への本学の歴史講義担当の交代の3点を同窓会副会長である私に相談されたが、①は新学舎図書館内に設置が決まり、②は私の役目となりおりなんとか同窓会設立80年、母校創立85周年の平成25年、新学舎完成を目指して計画しているが、③は田代先生に代わりうる人材は見当たらず、ずっとお願いするしかない次第である。

須藤昭子氏が「秩父宮妃記念結核予防功労賞」国際協力功労賞受賞

ハイチの結核療養所で30年以上にわたって医療活動を続けている須藤昭子氏(17回生)が、結核予防の活動に貢献した個人と団体をたたえる「第14回秩父宮妃記念結核予防功労賞」の国際協力功労賞を受賞しました。須藤氏は3月24日(木)に福島県郡山市で開

催される結核予防全国大会で表彰される予定でしたが、東日本大震災発生により式典が中止になり、急遽、秋篠邸に参邸し、同賞表彰状の贈呈を受けました。

キャンパスニュース

コールクライスが定期演奏会を開催

関西医科大学混声合唱団コールクライスの第29回定期演奏会が3月26日(土)午後6時から、守口市生涯学習情報センタームーブ21で盛大に開催され、約250名が来場しました。演奏会は愛唱歌曲集、演劇、組曲の3部構成で行われ、コールクライスのメンバーは日ごろの活動成果を披露しました。また、3月に卒業したメンバーには、後輩たちから卒業生に向けられた歌や花束が贈られました。



美しい歌声を披露するコールクライスのメンバー

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(平成23年1月1日～4月30日。 判明分のみ)

木梨 達雄 教授 (附属生命医学研究所 分子遺伝子学部門)	日経産業新聞 1月5日(水)	リンパ球などにある特定のたんぱく質が働かないとリンパ球が異常に増えて、正常な細胞を異物とみなす自己抗体ができて腎炎を発症することを、関西学院大学の片桐晃子教授との研究チームにより、マウス実験で突き止めたとの記事が掲載されました。
西山 利正 教授 (公衆衛生学) 三島 伸介 助教 (公衆衛生学) 櫻井 知賀 看護師	在アンゴラ日本国 大使館ホームページ 1月10日(月)～ 11日(火)に訪問	3名が巡回医師団としてアンゴラに訪問し、ルアンダ市内の病院訪問や当地在留邦人の健康診断、及び講演会を実施したという記事と状況の写真が掲載されています。
須藤 昭子 氏 (17回生)	産経新聞 1月11日(火) NHK教育 1月23日(日) テレビ大阪 2月11日(金)	医師としてハイチに赴任し、結核療養所で30年以上にわたって医療活動を続ける須藤氏の生き様が紹介されました。
播磨 洋子 准教授 (放射線科学)	日経産業新聞 1月12日(水)	進行した子宮頸がんで放射線が効くかどうかを、治療前に血液を採取して調べて判定する検査キットを開発したとの記事が掲載されました。
海堀 昌樹 講師 (外科学)	Medical Tribune 1月13日(木)	肝臓外科領域の全肝臓機能評価で、インドシアニンググリーン(ICG)負荷試験よりも信頼性が高いアジアロシンチグラム(シンチ)が肝切除後の肝障害予測に有用と報告したことが掲載されています。
朝子 幹也 講師 (耳鼻咽喉科学)	日本経済新聞 2月9日(水)夕刊	花粉対策に関する記事の中で「医師に聞く予防法」として、対策方法や、治療する際の注意点などに関するコメントが掲載されています。
山下 敏夫 学長	毎日新聞夕刊 2月10日(木) 産経新聞、朝日新聞 2月11日(金)	本学の学長選挙において、山下敏夫学長の再選に関する記事が掲載されました。
宇都宮 啓太 講師 (放射線科学)	朝日新聞 2月17日(木)	放射線物質を組み込んだ薬剤によるがんの治療法(RI内用療法)が広がっている、という内容の記事の中で、新薬出現を期待するコメントが掲載されています。
關 壽人 診療教授 (内科学第三)	毎日新聞 2月27日(日)	B型肝炎の治療の主流がインターフェロンから核酸アナログ製剤へと変化しているという内容の記事の中で、B型肝炎患者の現状や肝臓病の症状の特徴などについてのコメントが掲載されています。
伊藤 量基 准教授 (内科学第一)	日経産業新聞 3月11日(金)	自己免疫疾患の「全身性エリテマトーデス」が発症する仕組みについて、米テキサス大学MDアンダーソンがんセンターなどの研究チームにより解明したとの記事が掲載されました。

お知らせ

附属枚方病院業務改善コンテスト最終審査発表会

「附属枚方病院業務改善コンテスト」の最終審査発表会が3月1日(火)午後5時



30分から同病院13階講堂で開かれ、1次審査を通過した10チームによるプレゼンテーションが行われました。各チームから寸劇や応援団によるパフォーマンスたっぷりの白熱したプレゼンが行われ、会場も大いに盛り上がりました。審査の結果、看護部チーム「てんとうよぼう子みまもり隊」が最優秀賞を受賞しました。

このコンテストは職員が業務の質向上や効率化などの視点から業務改善案を策定・実行して組織の活性化に寄与することを目的に実施し、19チーム(部署)がエントリー。昨年7～12月の活動の実施報告をもとに、1月に1次審査を行いました。

発表会の冒頭、今村洋二附属枚方病院長は「働く場所に生きがいを持ち、常に新しい発想を意識してほしい」と呼び掛け、終わりの講評では徳永力雄常務理事が「組織活性は全員参加が基本。皆さんの力で働く喜びにつながる組織にしていきたいと思います」と力を込めました。今後も増収効果や経費削減に寄与されるものは継続して他の部門にも波及していくことが期待されます。

それでは最優秀賞に選ばれた看護部チームの実施報告を紹介します。

みまもりスコアの活用で転倒予防

看護部チームが取り組んだのは新たに作った「みまもりスコア」を使用した転倒予防対策です。附属枚方病院では毎年500件を超える転倒事故があることが以前から問題になっていましたが、この転倒リスクを事前に把握しようと本学整形外科非常勤講師で小室整形外科医院の小室元院長の協力を得て誕生したのが「みまもりスコア」です。

このスコアでは、これまで使用していたアセスメントスコアにはない、「ベッドでの端座位で足上げの可否」「ベッドにおける端座位からの立位の可否」といった実際の患者さんの動作に着目したところがポイントで、これら2項目を点数で評価した結果から転倒リスクの高い患者を抽出して、転倒予防対策を実施しました。その結果、転倒率が前年比3.58ポイントの減少となる1.62%にまで減少したという成果が出ました。

看護部チームは受賞後のコメントで「みまもりスコアを全病棟で取り組むよう広げていきたい」と抱負を語りました。

編集後記

東日本大震災の犠牲者のご冥福をお祈りします。未曾有の大災害から2ヶ月半が経過しましたが依然、被災地域の不安はぬぐえず、深刻な状況が続いています。生まれた地を離れ、本来は望んでいない新しい環境での生活を余儀なくされる方も多数いることを思うと、これまで通り生活できることは本当に恵まれていると感じます。

今回の震災を受けて各地から多数の災害医療チームが医療従事者としての使命や責任感のもと、被災地に駆けつけ、本学のチームも震災直後から計3度、岩手県で活動しました。

新年度が始まり関西医科大学に114名、附属看護専門学校に83名が入学。この震災を通じて、彼らはあらためて医師、看護師という職業を見詰め直し、新たな使命感も芽生えたと思います。自らが望み、選んだ医療の道。新入生たちには学生生活を謳歌し、立派に成長してもらいたいです。(山)

5/28に枚方新学舎起工式

5月28日(土)に枚方新学舎起工式が新学舎建設用地にて、下記の通り執り行われます。

●当日の予定

場所：本学校方新学舎建設用地(附属枚方病院北側隣)

神事：午前10時～

直会：午前11時～



関西医科大学広報 Vol.13

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15
TEL 06-6992-1001(代表)
FAX 06-6993-5221

<http://www.kmu.ac.jp/>

E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

平成23年5月26日(木)発行